

だいぼうけん
ミーとトラの大冒険

日本の農業と

でんとうぶんか
伝統文化

新潟版



日本の農業と伝統文化

もくじ

1 農業の宮み……1

2 人びとの絆をつくってきた農業……5

3 すごいぞ！ 田んぼの力・さまざまな機能……15

4 受け継がれる伝統文化……25



本学習マンガは、以下の内容への理解を深めるための
家庭用学習教材として作成しています。

- 農業と祭りの関係を学び、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事には地域の発展などの様々な願いが込められていることへの理解を深める。(小学4年生向け)
- 各地で多大な労力をかけて水利施設が整備されたことなどを学び、地域の発展に尽くした先人による様々な苦心や努力が生活の向上に貢献してきたことへの理解を深める。(小学4年生向け)
- 農業遺産地域の取り組みについて学び、我が国の食料生産は自然条件を生かして営まれていることへの理解を深める。(小学5年生向け)
- 田んぼが生態系を保全する機能を学び、水及び空気を通して周囲の環境と関わっている生物の間には食う食われるという関係があり、人は環境と関わって工夫して生活していることへの理解を深める。(小学6年生向け)

イラスト ニシハマカオリ 藤村賢志

原案 佐々木里子

デザイン・DTP 谷由紀恵

写真提供 北広島町教育委員会、一般社団法人網走市観光協会、高松市教育委員会、木古内町役場、見沼代用土地改良区、山都町役場、Aflo、PMS/ベシャワール会、熊本市、農林水産省

協力 丁澈士 平野久美子

監修協力 澤井陽介 広瀬伸

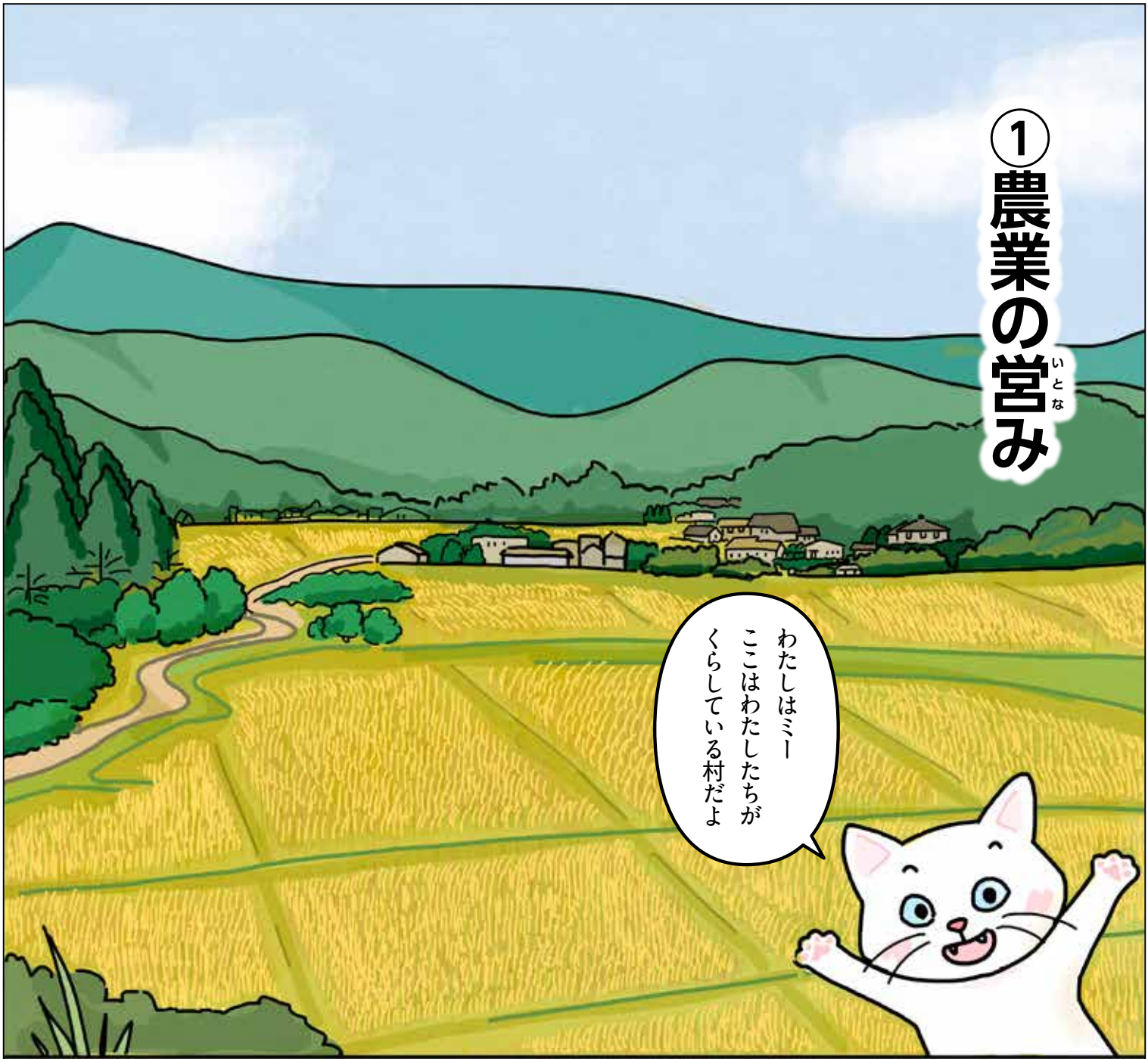
編集 (株)スリーシーズン、清水めぐみ

制作 NHKエデュケーショナル

農林水産省補助事業



① 農業の営み いとな



わたしはミー
ここはわたしたちが
くらしている村だよ



あれ？
何か
聞こえる

ミーン...ミーン...
ミーン...

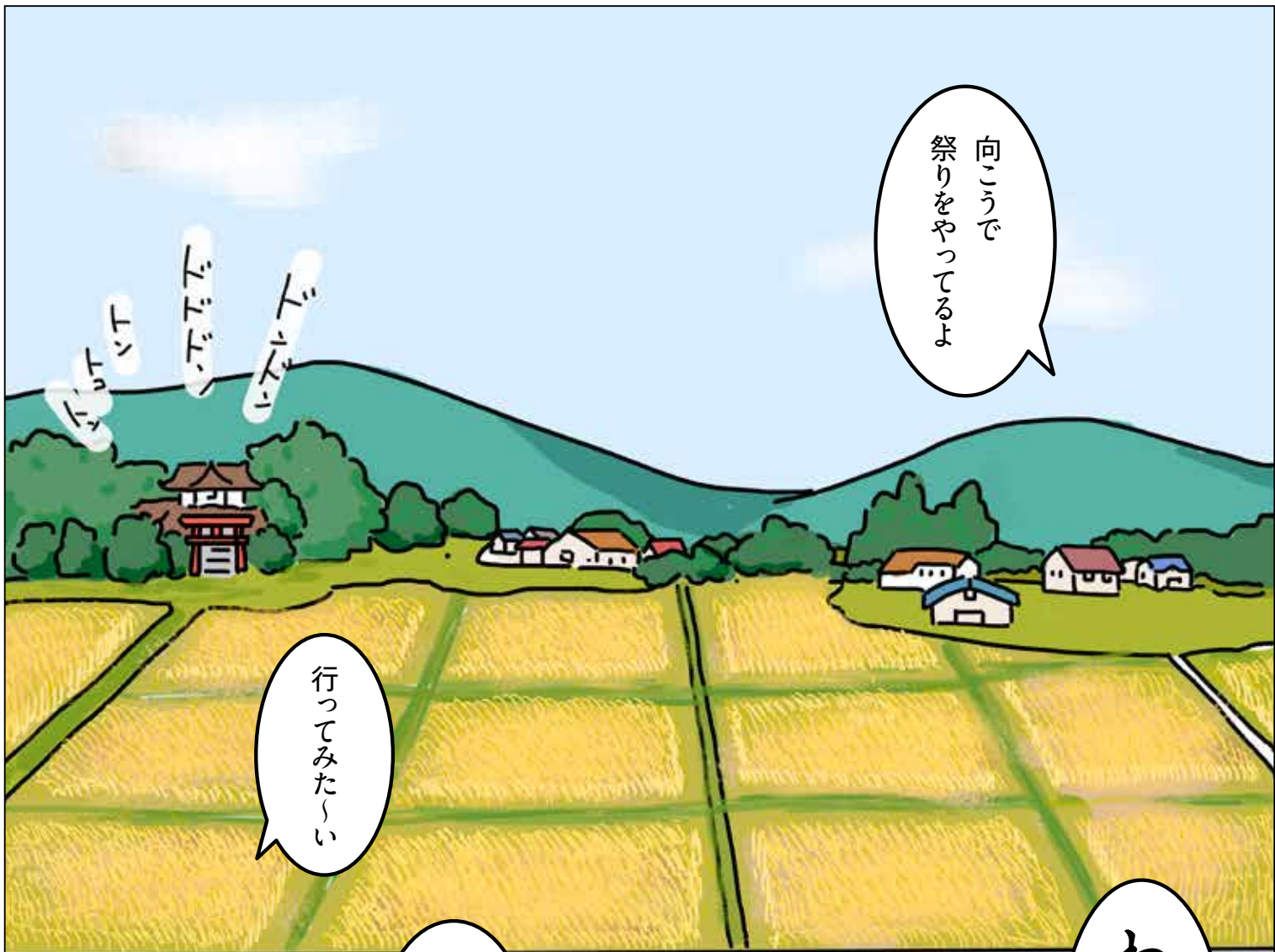


ぼくはトラ！
ミーはね
とっても
物知りなんだよ！



豆知識

漢字の「米」は「八十八」という文字からつくられています。お米ができるまでに88回もの手間がかかるという意味といわれています。



向こうで
祭りをやってるよ

行ってみたい



秋祭りの
季節だね

なにか
始まったみたい



わあ

にぎやかで
楽しい!



ここから読みこんでね!



全国の農業にかかわる^{でんとうぎ}伝統的な祭りを調べてみましょう。
農林水産省「農村の^{でんとうまいじ}伝統祭事」のサイトに飛びます。



この祭りは
「**拔穂祭**」と
いうんだよ



神様に
りっぱな**稲**が
実りました
という**感謝**を
しているんだよ



拔穂祭?
どんな意味が
あるの?



豆知識

拔穂祭は、「ぬいぼさい」「ぬいほさい」とも。**拔穂祭**は全国各地で行われています。

わたしたちが
食べる農作物は
大自然の大切な
めぐみだから

農業をやる人にとって
祭りは 特別な
意味があるんだ



11月には五穀豊穣に
感謝をささげる
「新嘗祭」もあって、

この地域では
収穫した稲を使って
お酒をつくらせて
そなえるよ



ん？
五穀豊穣って
どういう意味？



「五穀」は
米、麦、豆などの
穀物のことで、
これらの
「豊かな実り」
という意味だよ

日本人は
二千年以上
稲作で生活を
してるんだ

自然や道具や
米つぶにいたるまで
神様が宿ると考えて
いろいろな意味が
こめられた祭りが
行われてきたよ



● 農業に関係する四季ごとの祭りの例 ●

全国各地で、農業にか
かわる祭りがたくさん
行われています。祭りの
形は地域によってち
がいます。

春 みぶ はなたうえ 壬生の花田植



広島

6月、早乙女(田植えをする女性)たちが田植え歌を歌いながら、稲を田んぼに植えつけ、豊作を願います。「無形文化遺産」のひとつです。

夏 とよさと かぐら 豊郷神楽



北海道

網走市の豊郷神社で8月1日に行われる祭り。土地を清め、五穀豊穣と豊作に感謝し、神楽を踊ります。演目は12種類あります。

秋 ひょうげ祭り



香川

水の恵みに感謝し、豊作を祝う行事として、毎年9月第2日曜日に実施されます。農具を使っておどけた格好をして町を練り歩きます。

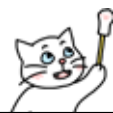
冬 寒中みそぎ祭



北海道

1月13日～15日に行われる祭り。「行修者」と呼ばれる若者4人が、豊作豊漁を願って、川や海で体を清め、祈りを捧げます。

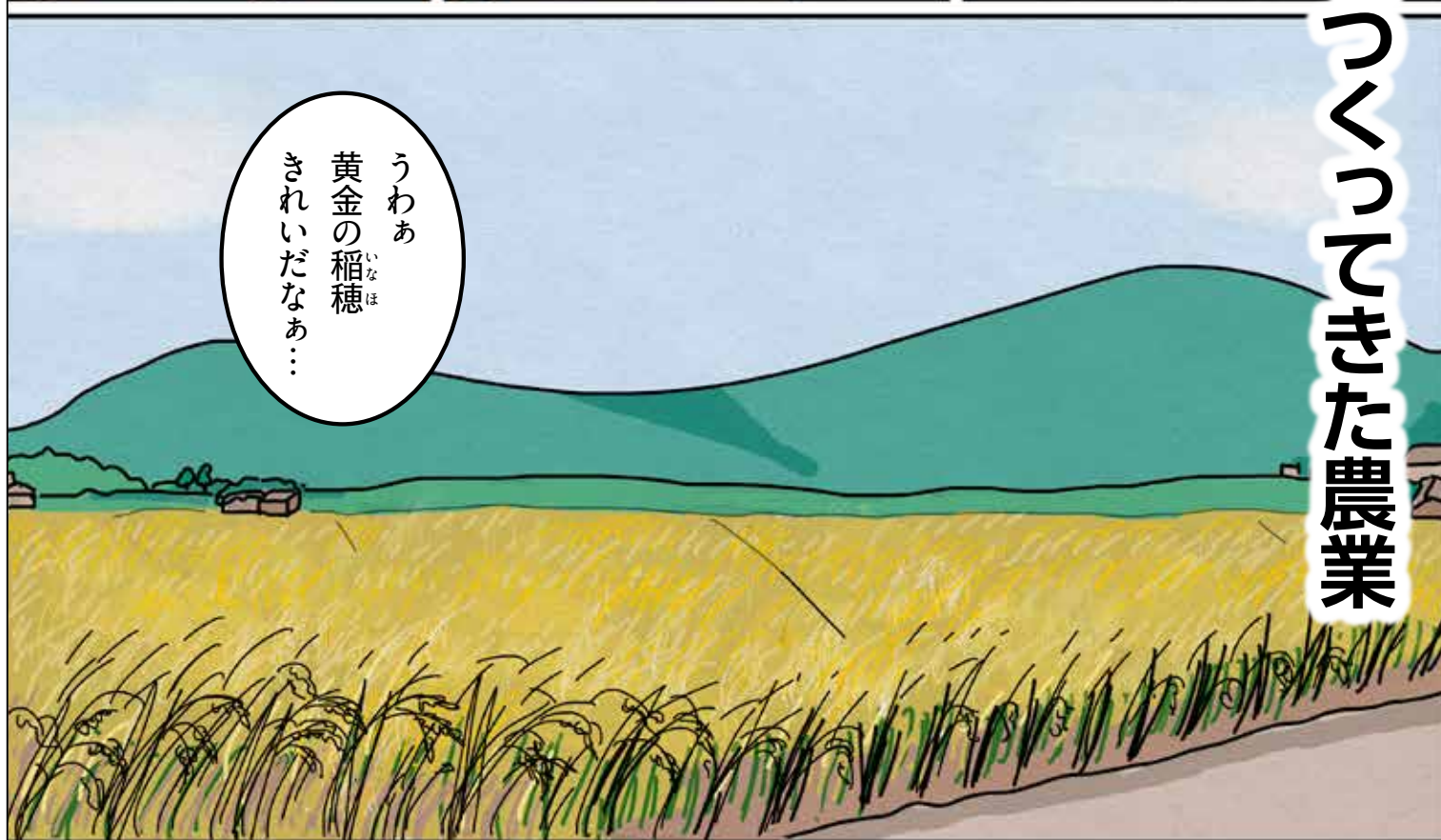
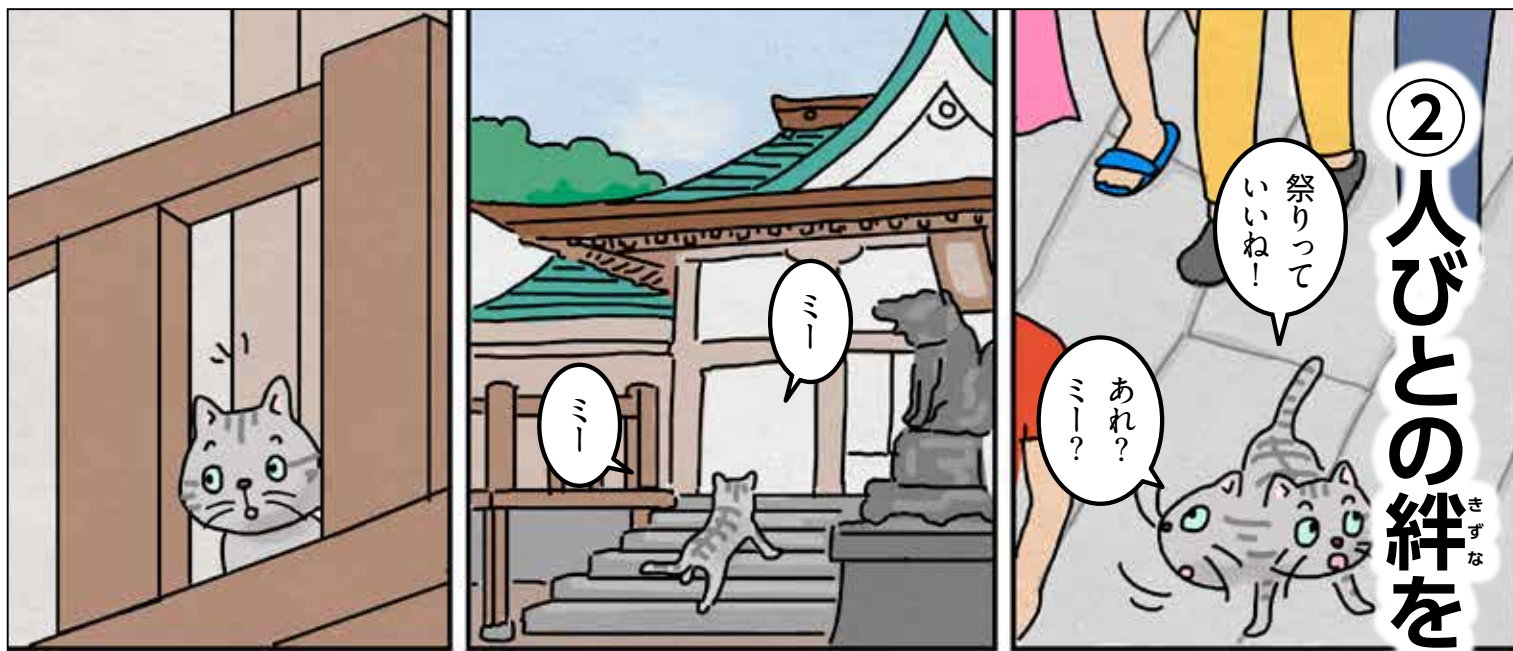
みんなも
調べてみてね！
2ページの豆知識の
リンク先にいろいろな
祭りがあるよ。



豆知識

新嘗祭は「しんじょうさい」とも。毎年11月23日に行われ、「勤労感謝の日」にもなっています。

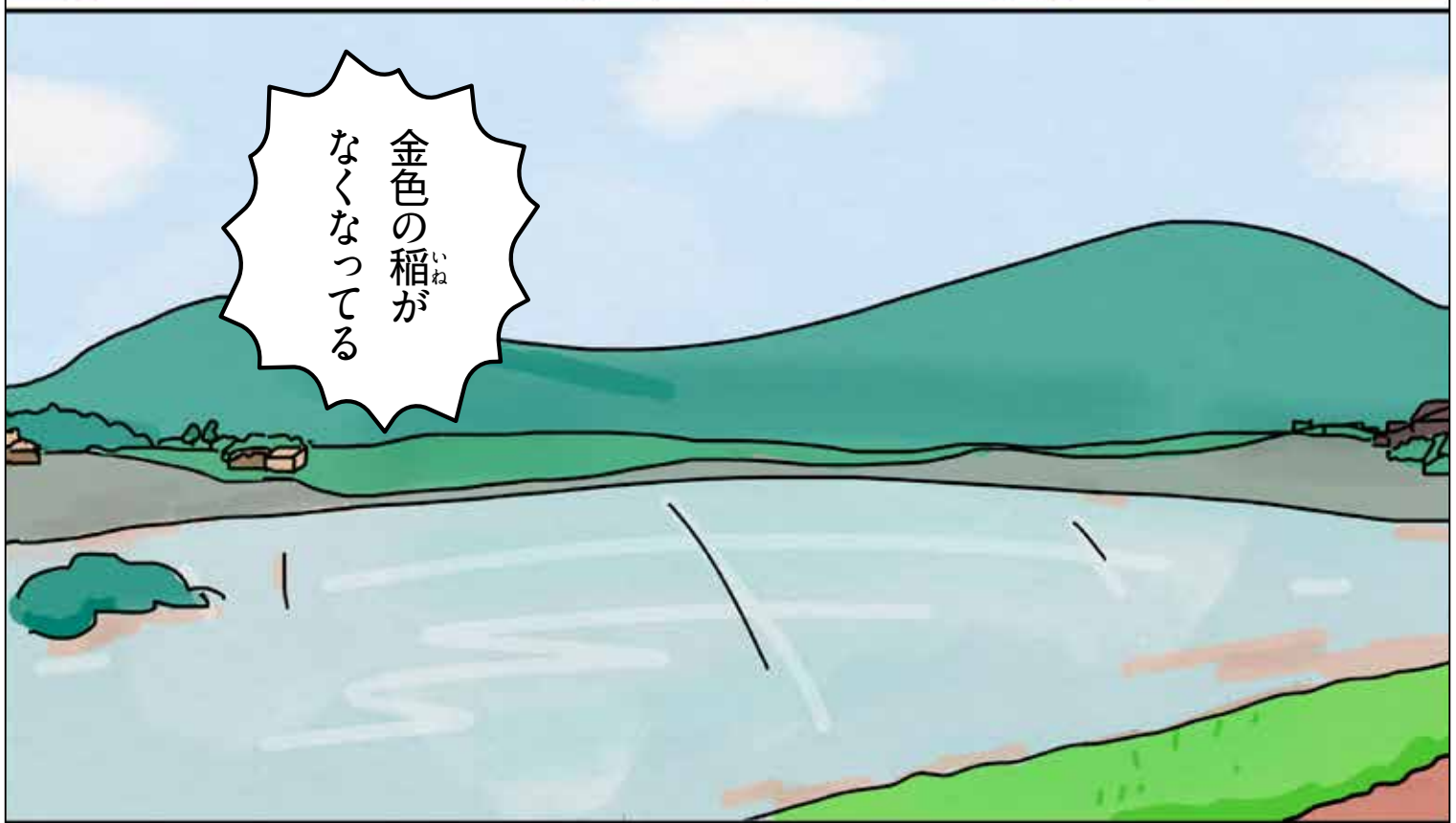
② 人びとの絆きずなをつくってきた農業



ここから読みこんでね!



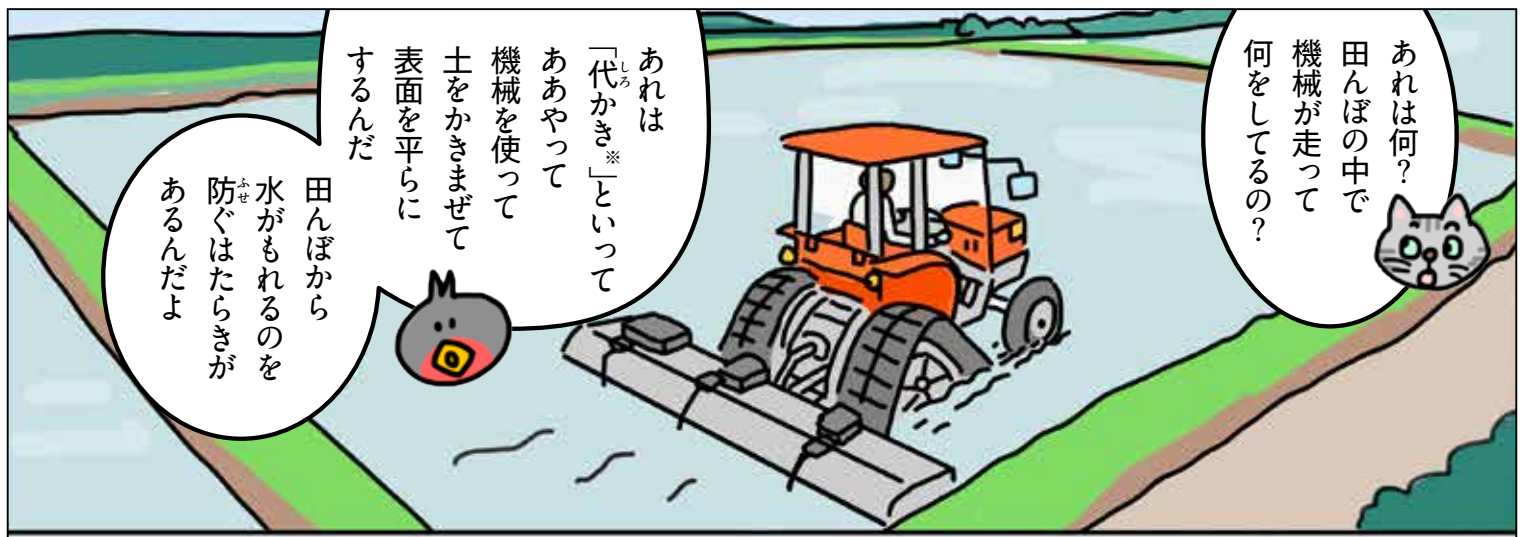
ジェー しよくのうきよういく JAは「食農教育」に取り組んでおり、がくしゆうし どうようりょう 学習指導要領(主に小5社会)に関連した補助教材「農業と私たちの暮らし」や動画などを無料公開しています。



ここから読みこんでね！



田んぼでお米はどのように育つのでしょうか？
動画「米を作る田んぼ」(約2分)が見られます。



あれは何？
田んぼの中で
機械が走って
何をしてるの？

あれは
「代かき[※]」といって
ああやって
機械を使って
土をかきまぜて
表面を平らに
するんだ

田んぼから
水がもれるのを
防ぐはたらきが
あるんだよ



「畦ぬり^{あぜ}」といって、
土を盛りつけて
田んぼのふちに
穴があいたり
割れ目ができたり
するのを防ぐんだ



あつち土を
ぬりつけてるの？



ねえ？
を
ためるって
何のこと？

答えは次のページで！
ヒントは漢字一文字
(ひらがな一文字)



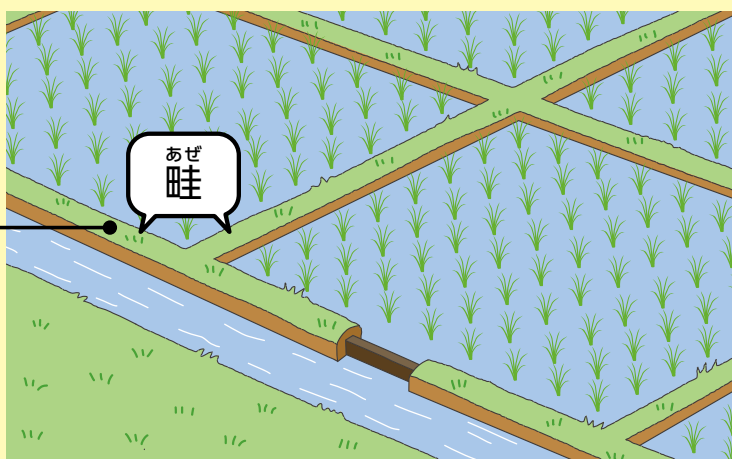
…しんどいけど
？をためる
ためには欠かせないから
やらないとな

※「代かき」…1回行うのが一般的。以前は3回行ってあり、牛や馬が2回目まで行い、3回目を人の手で行っていました。



? が何かわかったかな? 正解は「水」だよ!

いつも必要な量の水を蓄えておけるのは、田んぼを囲む「畦」のおかげ



田んぼの水は稲を元気に育てるだけじゃなく、いろんな働きがあるんだ! あとで説明するよ



水がないと
作物は育たない
んだケロ



田んぼには
水が欠かせない
んだね



やあ

…って
カエルが
しゃべった!



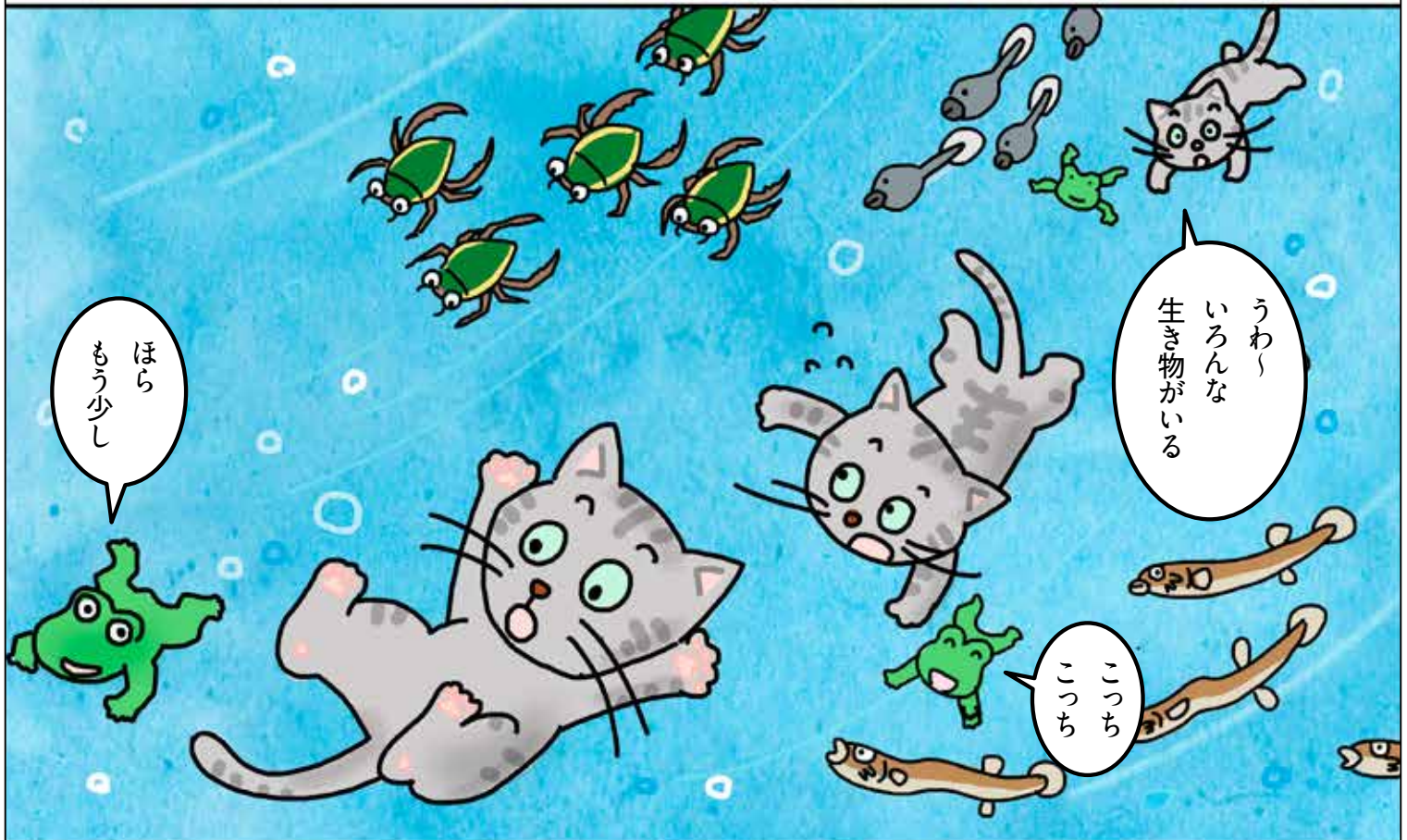
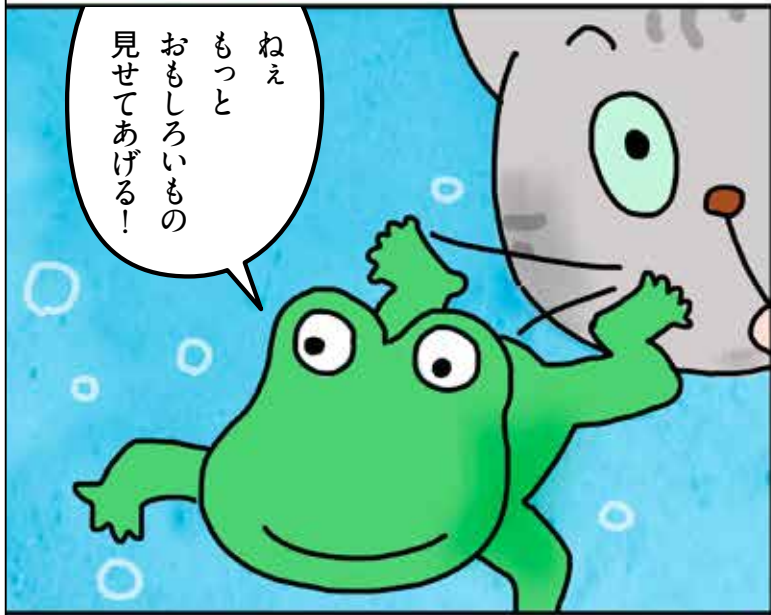
なるほどー



ここから読みこんでね!



田んぼを囲む「畦」がどんなものか、調べましょう。
動画「田んぼに水がたまるのは?」(約1分)が見られます。

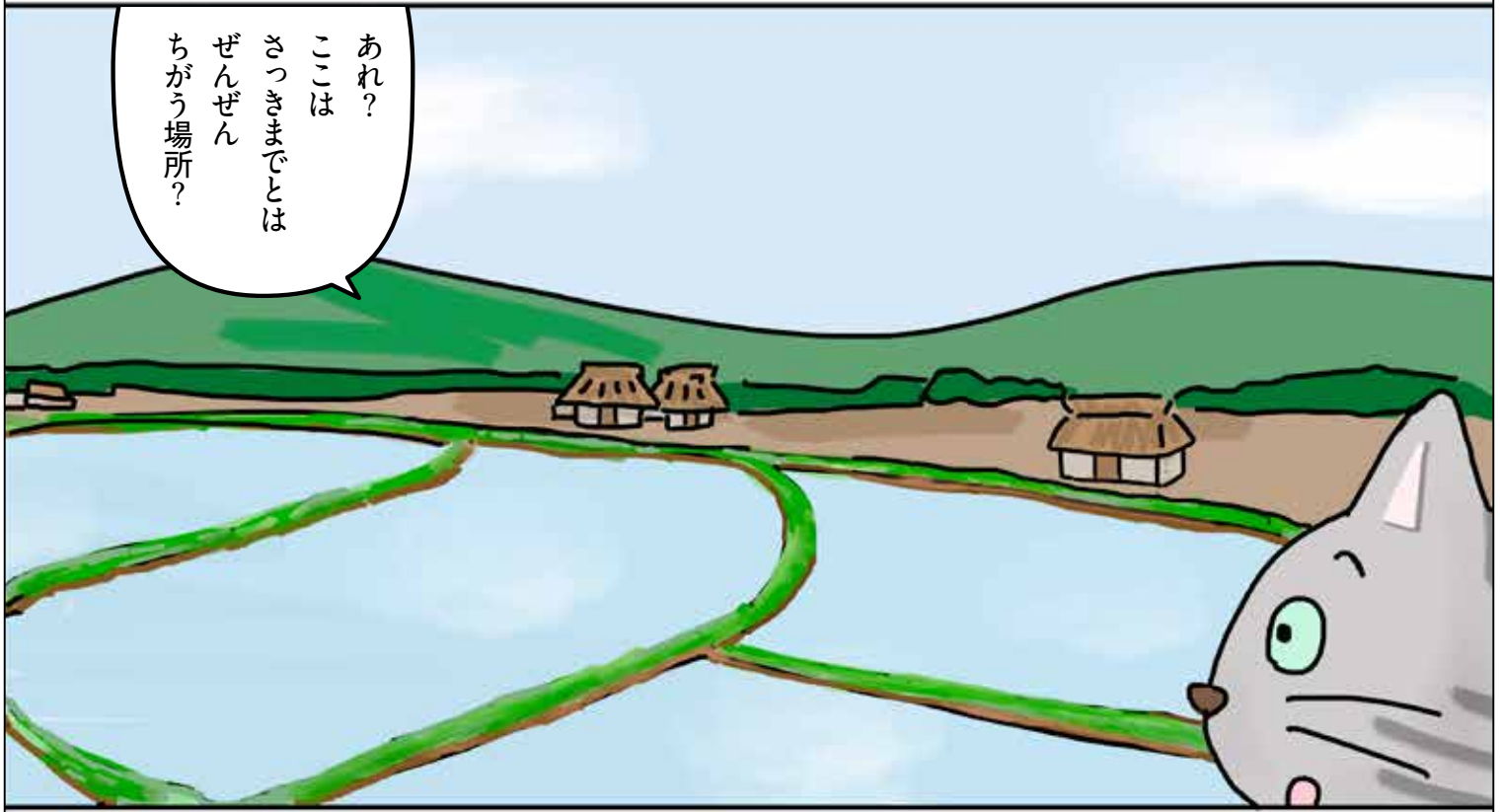


豆知識

田んぼに水を入れる入口は「水口(みなくち)」、田んぼから水を出す出口は「水尻(みなじり)」と呼ばれています。

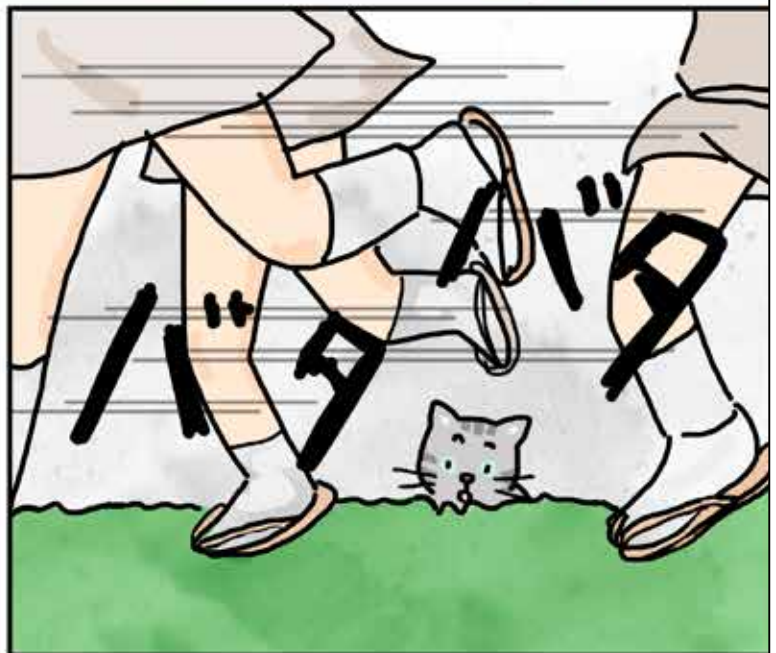


あれ？
ここは
さつきまがてとは
ぜんぜん
ちがう場所？



なんだと
お前たちこそ！

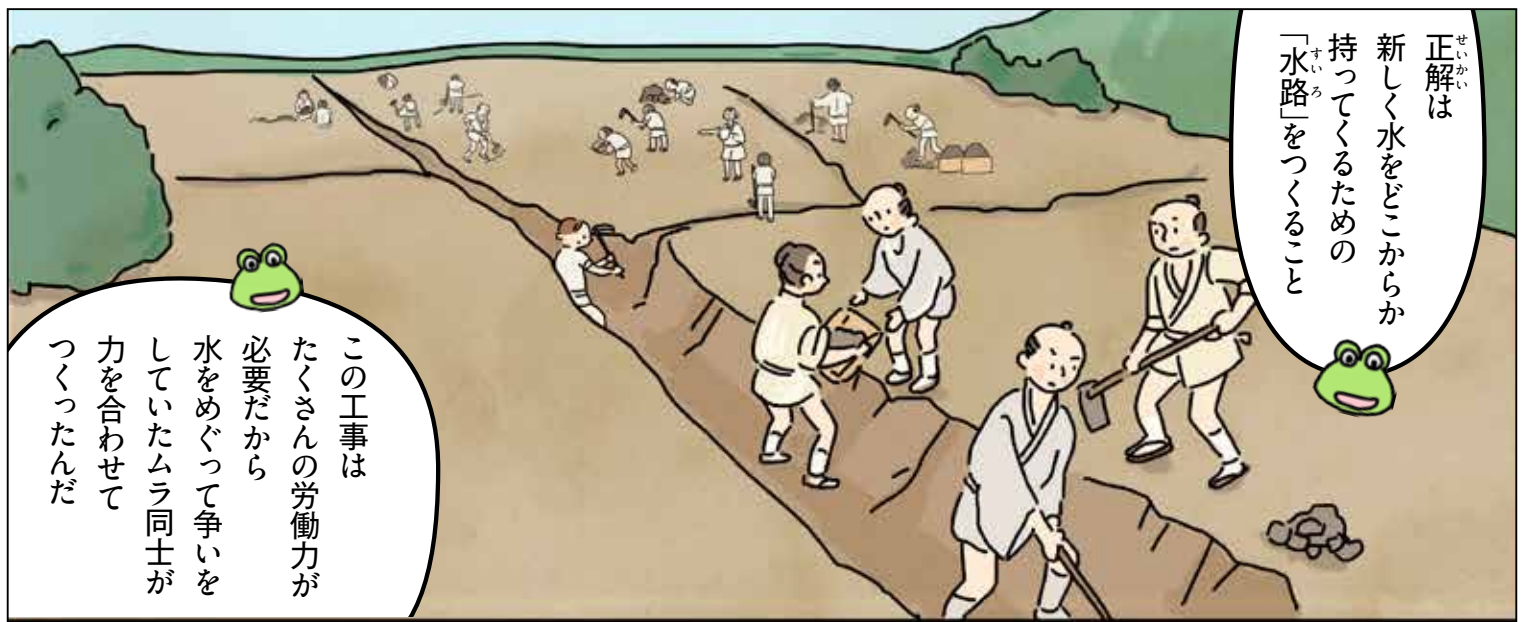
何をしてるんだ！
勝手に水を
取るな！



豆知識

岩手県の滝名川たきながわでは、江戸時代から300年あま余りの間に、記録だけでも36回も「水げんか」があり、死者が出るほどほげ激しい争いじょうけいの情景が記録されています。





正解は
新しく水をどこからか
持ってくるための
「水路」をつくること

この工事は
たくさんの方の労働力が
必要だから
水をめぐって争いを
していたムラ同士が
力を合わせて
つくったんだ



すごい！
名案だね！

人の手で
田んぼに水を
入れることを
「かんがい」というケロ！



川の水をせきとめて
利用したり
ため池を掘って
雨水をためたりして
水源をつくるんだよ

水路の水は
どこから
持ってくるの？



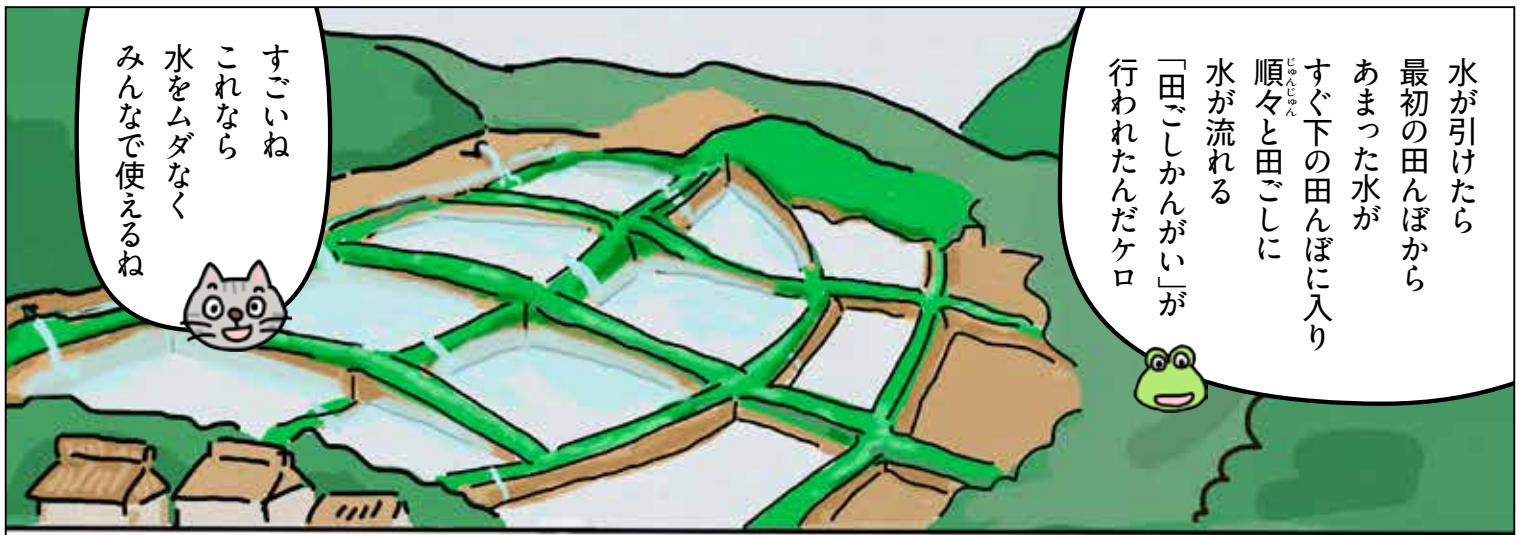
そうやって人がつくった
日本中の水路の長さを
合わせると約40万kmあって
月まで届いちやう長さだケロ！

ひえ、
長い！



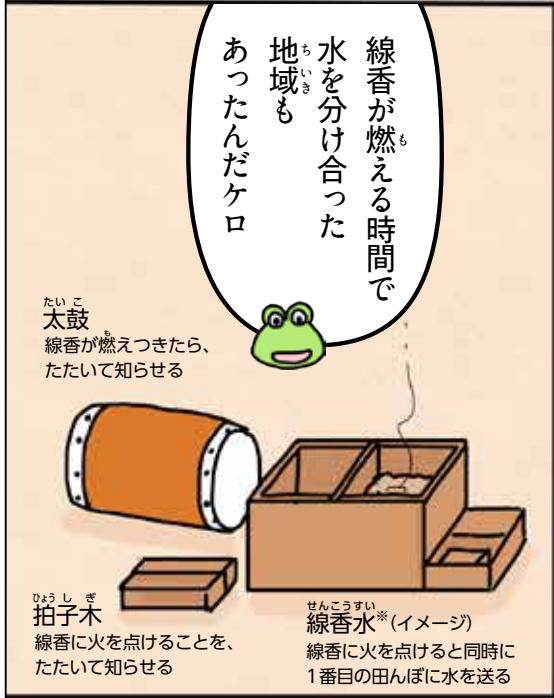
山の向こうの
川から
水を引くために
ノミや
ツチを使って
トンネルを
掘ったりも
したんだよ

豆知識 江戸時代にノミとツチで掘られたとされる深良用水のトンネルは全長1280m。山の両側から掘られましたが、出会いに1m程度の落差しかないほど、測量は高精度でした。世界かんがい施設遺産。



水が引けたら
最初の田んぼから
あまった水が
すぐ下の田んぼに入り
順々と田んぼに
水が流れる
「田ごしかんがい」が
行われたんだケロ

すごいね
これなら
水をムダなく
みんなでするね



線香が燃える時間で
水を分け合った
地域も
あったんだケロ

たいこ
太鼓
線香が燃えつきたら、
たたいて知らせる



ひょうしぎ
拍子木
線香に火を点けることを、
たたいて知らせる

せんこうすい
線香水※(イメージ)
線香に火を点けると同時に
1番目の田んぼに水を送る



でも水が
足りないときは
どうするの？

どうしても
上の田んぼが
有利なだけで
みんな同じムラにいて
上の人を下にも
田んぼを持って
いたりするから
おたがいに気を配って
協力することが
大事なんだケロ



限られた水を
公平に分ち
合うために
たくさん試行錯誤
したんだね

水を得るために
団結した人たちの
絆が深まって

それが今も
地域の人たち独自の
風習として
受けつがれたケロ

*失敗をくり返しながら解決
する方法をさぐる「じり」



ムラとムラの間でも
けんかにならないように
何度も話し合って
水の配分ルールを
つくったりしたんだケロ

豆知識 ※「線香水」…昔、雨の少ない瀬戸内海沿岸の讃岐地方では、水不足のとき、田んぼに水を公平に分けるため、線香の火が点いている時間だけ田んぼに水を入れ、燃えつきたら次の田んぼへと、配分を工夫していました。



現代の日本では農家のためにかんがい施設を管理する「土地改良区」という組織が各地域に置かれているよ。

日本にはたくさんの「世界かんがい施設遺産」があるんだって



みぬまだいようすい
見沼代用水 (世界かんがい施設遺産)



江戸時代(享保年間)に利根川から農業用水を供給する施設として開削された長さ約60km以上の歴史的な大用水路。水運にも利用され、見沼田んぼから江戸の中心部に米や野菜が運ばれ、帰る船で運ばれた尿尿は肥料として田んぼに還元されるなど、江戸時代の循環型社会を支えました。現在は埼玉県東南部の約11,340haの農地に農業用水を供給するとともに、首都圏への水道水の供給にも利用されています。

つうじゆんきょう
通潤橋 (世界かんがい施設遺産)



水に恵まれない一帯に水を送るために江戸時代につくられた、熊本県の白糸台地にある農業用水路の一部の橋です。石造りのアーチ型をしており、長さ約76m、高さ約20mあります。2016年の熊本地震、2018年の豪雨で被害を受けましたが、2020年に再開。国指定の重要文化財にもなっています。

外国で農業や農村発展のために力をつくした人たちがいます



とりい のぶへい
鳥居信平
(1883~1946)



へいとうけん らいぎきょう きょうそう
屏東県の来義郷にある胸像



静岡県生まれ。台湾製糖株式会社の技師として最南端の屏東県に赴任。川底の伏流水をせき止めて利用する環境にやさしい工法を考案し、のべ14万人の労働力(うち原住民は6万人)を集結して地下ダム「二峰圳」を建設。荒地だった屏東平原を緑の大地に変えました。鳥居の功績は、屏東県の小中学校副教材にも取り上げられており、屏東県と故郷の袋井市双方に胸像が設置されるなど、日台交流の掛け橋になっています。

なかむら てつ
中村 哲
(1946~2019)



ひあ 上がったスランプール平野



通水14年後のスランプール平野

1946年福岡県生まれ。医師。アフガニスタンに診療所をつくりましたが、大干ばつが起こり、ほとんどの病気は十分な食料と清潔な水があれば防げるものだと考えて、かんがい事業を行うことを決意。合言葉は「100の診療所より1本の用水路」。白衣を脱いで重機に乗り、気温50度超の炎熱の大地に戻ってきた難民や元ゲリラ兵と汗を流して用水路を整備し、砂漠化した平野を緑の大地に変えました。



まのちき
豆知識

「世界かんがい施設遺産」とは、歴史的、技術的、社会的価値があるかんがい施設を、国際かんがい排水委員会(ICID)が登録・表彰する制度です。

③ すごいぞ！

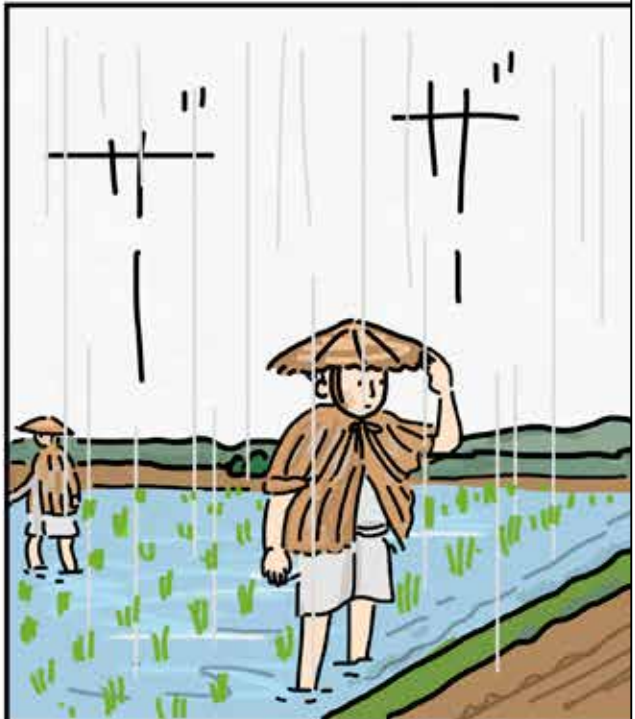
田んぼの力・さまざまな機能

うわあ
すごい雨！



あれ！
こんな雨降りの中
何をしてるんだろう？

蛙がくずれたり
水路から水が
あふれたりしてないか
見回ってるんだよ



豆知識

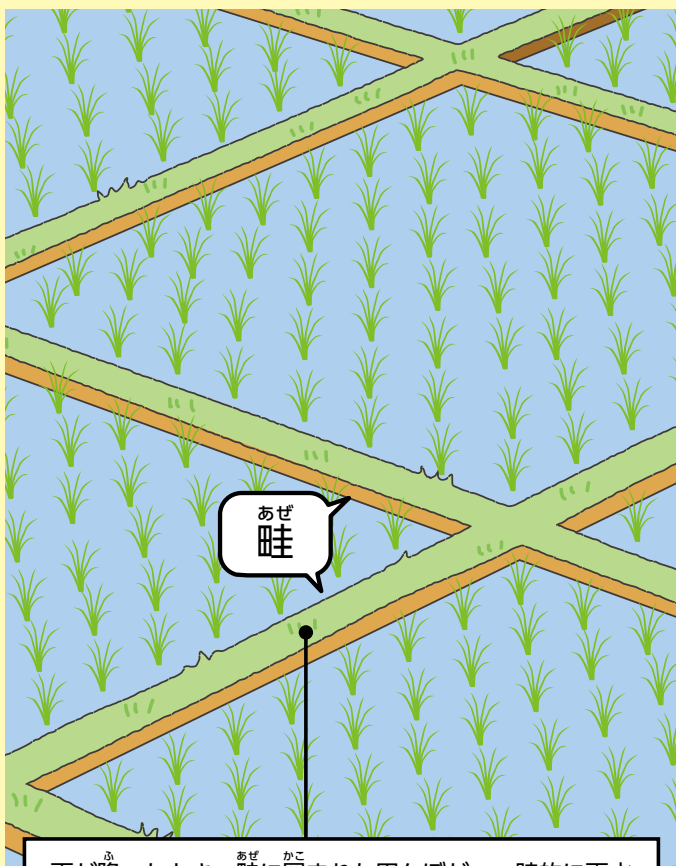
「見沼代用水(→14ページ)」には、3mの水位差を乗り越えることができる「見沼通船堀」がつけられました。
見沼通船堀は日本最古の閘門式運河であり、同じ構造である、パナマ運河より180年も早くつけられました。



あぜ 畦は一時的に雨水をためる役割をしているよ やくわり

それができる理由は…

① 田んぼが畦に囲まれているから あぜ かこ

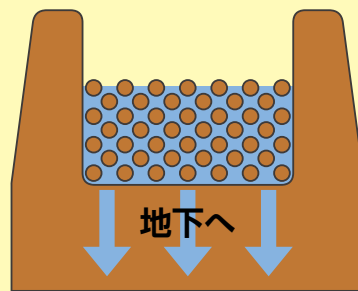


雨が降ったとき、畦に囲まれた田んぼが、一時的に雨水をためます。田んぼから水もれしないように、日ごろから「畦ぬり」(→7ページ)は大切です。

② 田んぼの泥が水を ゆっくりしみこませるから どろ

代かき前 しろ

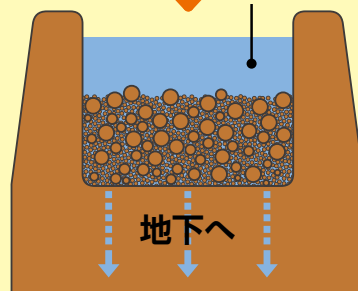
泥(土)があら
いと雨水のし
みこみが早い



代かき

水がたまる!

代かき後 しろ



「代かき」(→7ページ)で田んぼの泥(土)が細くなり、雨水の通り道のすき間をうめず。すると、雨水はゆっくり地下へしみこんでいきます。

日本全国の水田に
ためられる水の量は
東京ドームの何杯分
でしょうか!

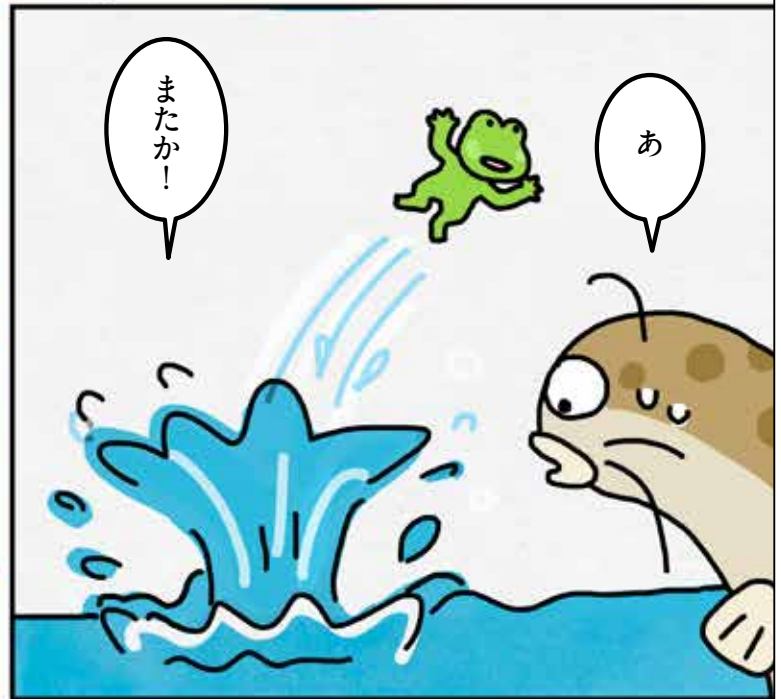
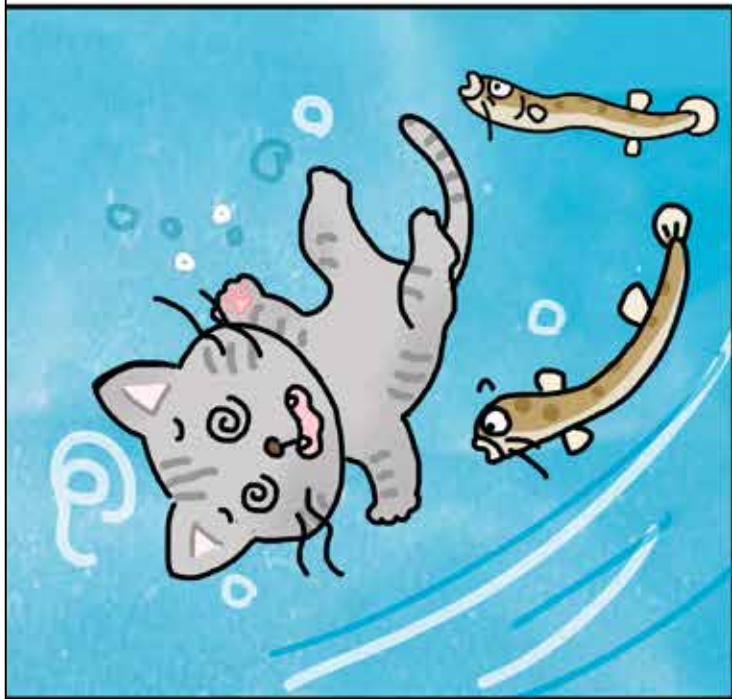
ここで
クイズ!


答えは
次のページ!

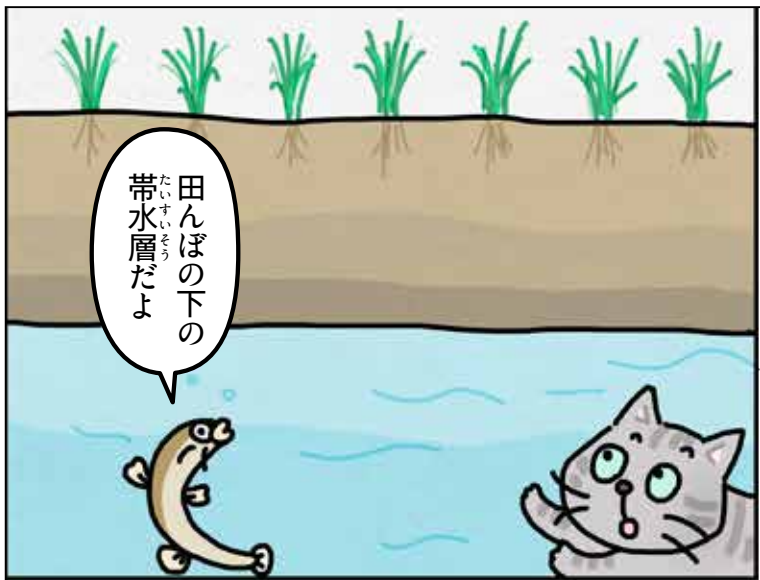


田んぼには洪水を
起こりにくくする
働きがあったなんて
おどろき!

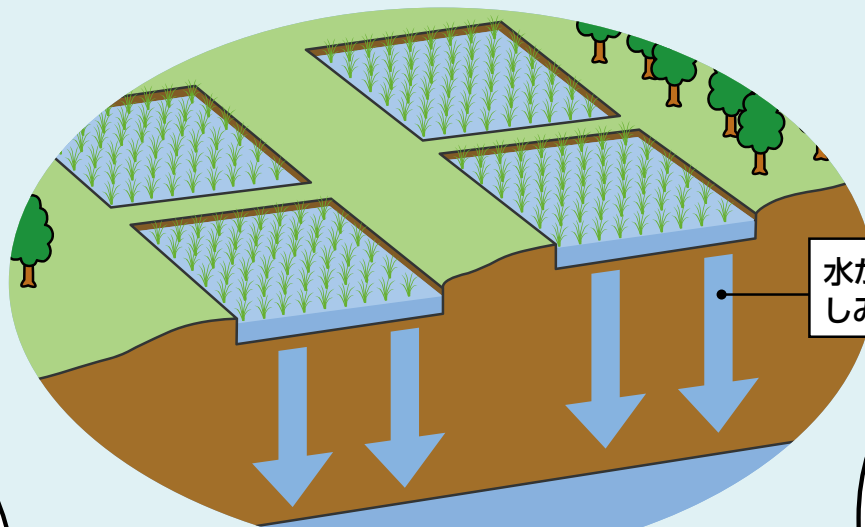




 **豆知識** 日本全国の水田面積は約235万^{ヘクタール}ha (令和4年7月現在)であり、水深を20cmとすると約47億^{m³}m³の水を貯めることができます。東京ドームの容積は124万^{m³}m³なので、約3800^{杯ぶん}杯分という計算になります。

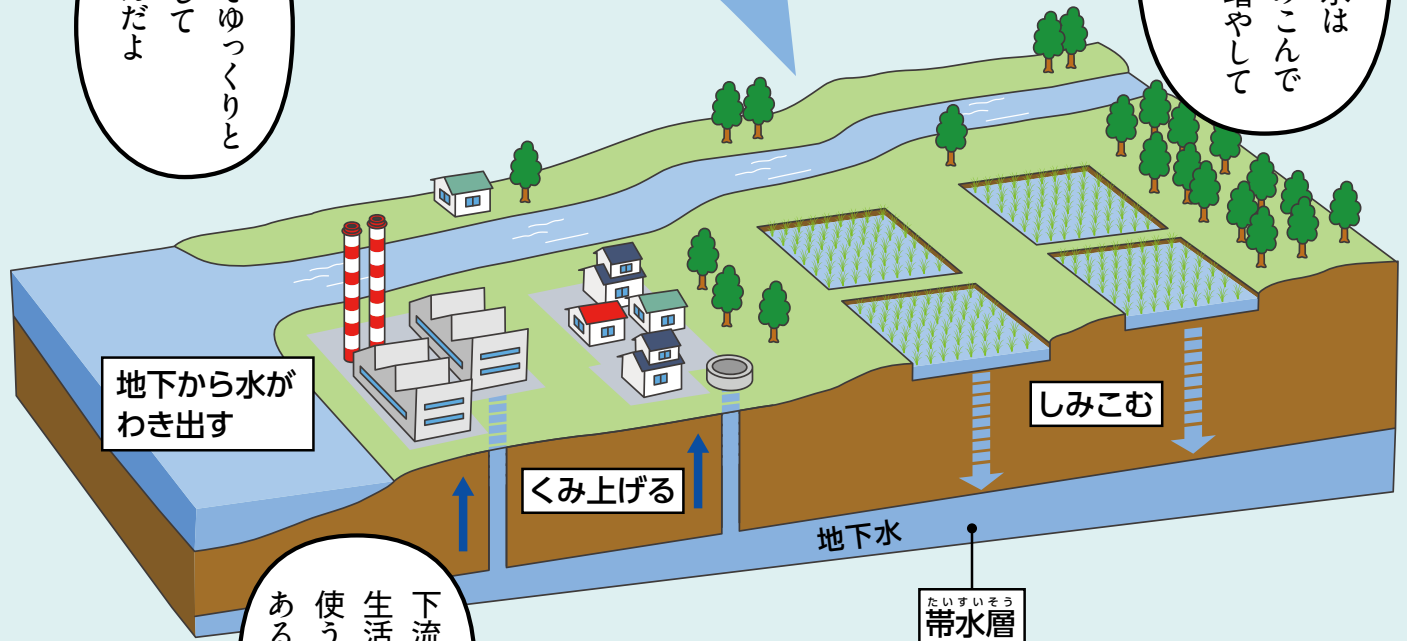


じっさい
*実際の地下水は土中にあるので泳げません。



田んぼの水は
地中にしみこんで
地下水を増やして
いるんだ

そしてゆっくりと
循環して
いるんだよ



下流の人が
生活用水として
使うことも
あるよ



豆知識

沖縄や奄美群島には「地下ダム」という地下に農業用水を貯める施設がつけられています。



田んぼはお米を作るだけの場所じゃなくて
自然環境や人のくらしを守っているんだよ
ほかにもこんな役割があるよ

「地下水かん養」 熊本県白川中流地域(熊本市、大津町、菊陽町)



熊本地域は、阿蘇山の噴火によって、水を通しやすい大地が形成されました。それを利用し、江戸時代に加藤清正が白川中流域に田んぼをつくり、田んぼから大量の水が地下に供給されるようになりました。このことを「地下水かん養」といいます。熊本地域は、現在も水道水に使われる水をほぼ100%地下水でまかっています。

「ふゆみずたんぼ」 宮城県大崎市の蕪栗沼付近



「ふゆみずたんぼ」とは、冬場の田んぼに水を張る農法をいいます。渡り鳥やイトミミズ、カエルなどが生息することで、雑草や害虫を食べてくれるだけでなく、フンが肥料にもなります。そのため、除草剤や化学肥料を使わずに安心・安全なお米をつくることができます。

田んぼってすごい！



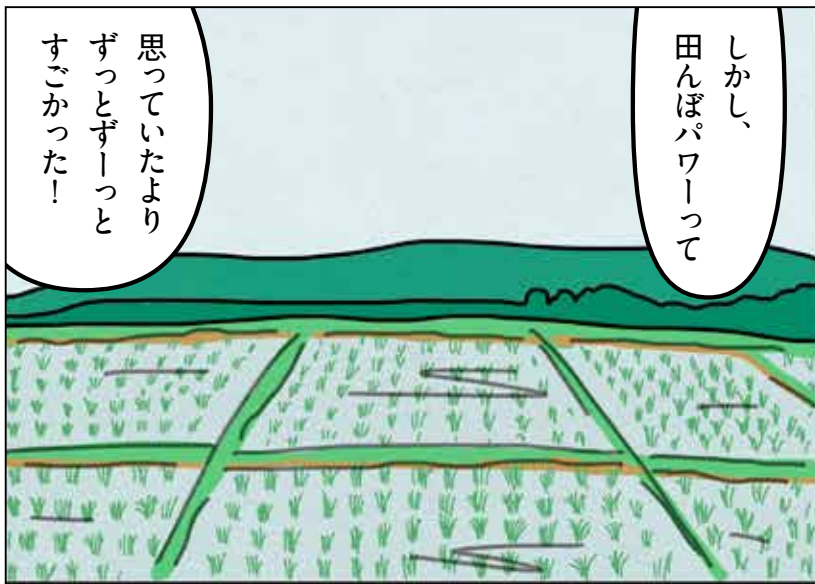
ちなみに、米作りをするために人が手入れをしている田んぼには、土砂くずれや土が流れこむのを防ぐ力もあるよ



ここから読みこんでね！



田んぼがわたしたちのくらしにどう役立っているかを調べましょう。
動画「くらしを守る田んぼ」(2分30秒)が見られます。



思っていたより
ずっとずーっと
すごかった!

しかし、
田んぼパワーって



ありがとう
ドジョウさん!



命?



まだまだ
そんなもんじゃないよ
ほかに大事な
役割がある!

いろんな命を
育む場所でも
あるんだ!



まず
わたしたちは
田んぼで
卵を産むわ

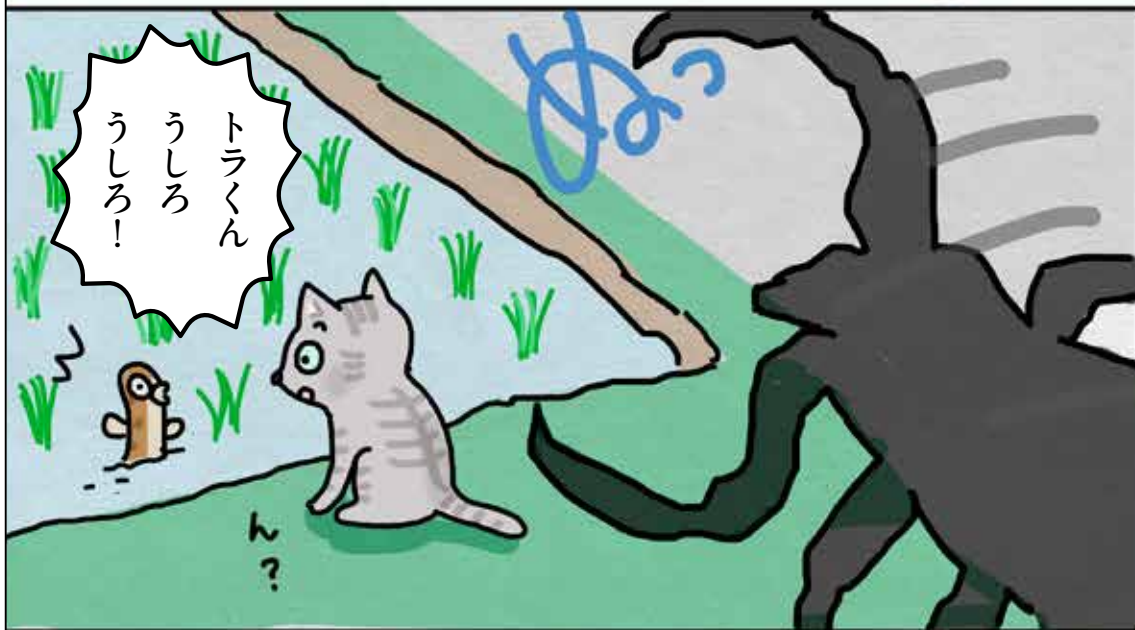
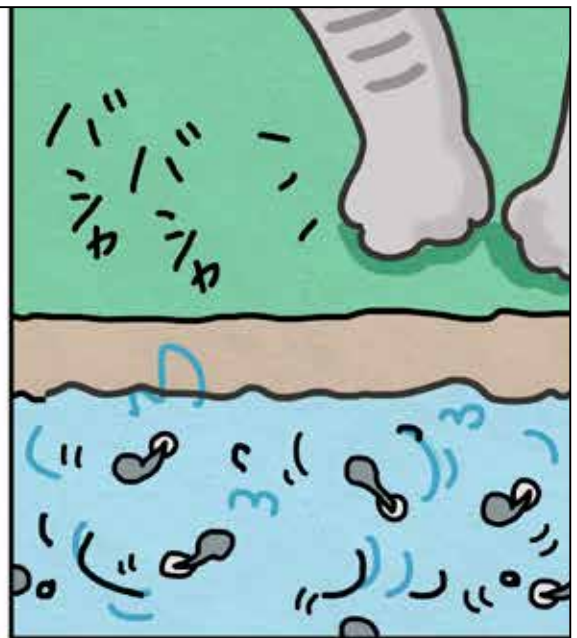
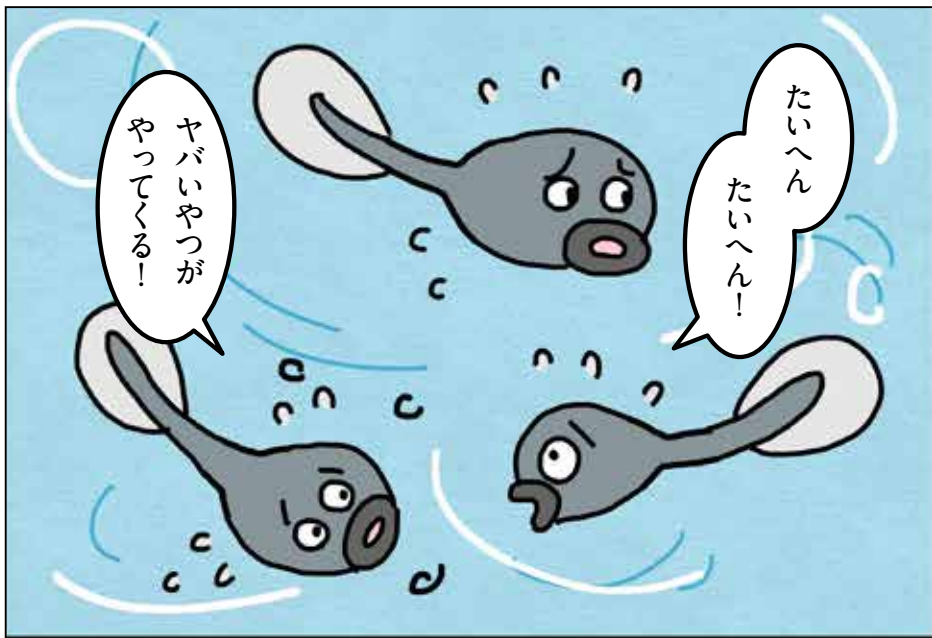
暖かくて
えさも豊富で
サイコー

子どものころは
田んぼですごし
大人になったら
ため池に
お引っこし!



豆知識

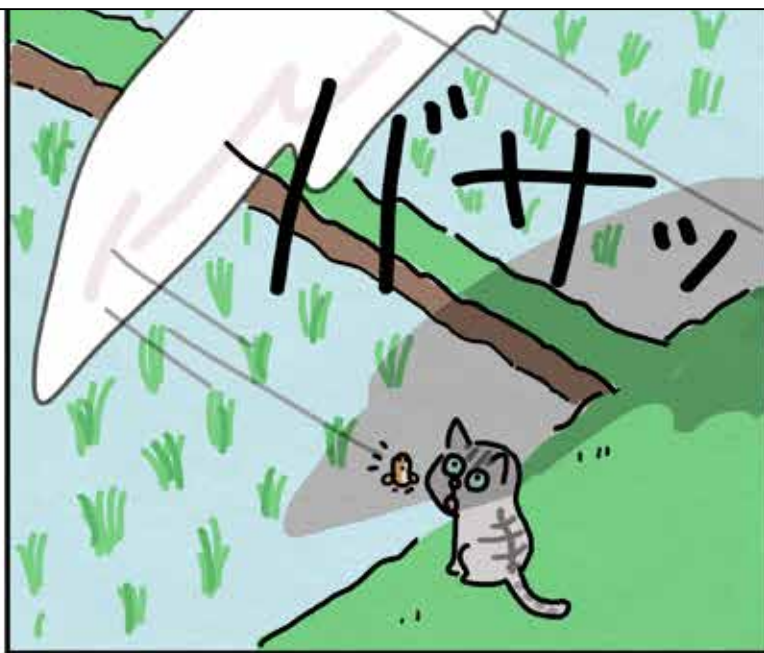
田んぼの農作物をつくる以外の役割は、「多面的機能」とよばれ、農業の多面的機能は日本全国で毎年8兆円以上に相当すると試算されたことがあります。



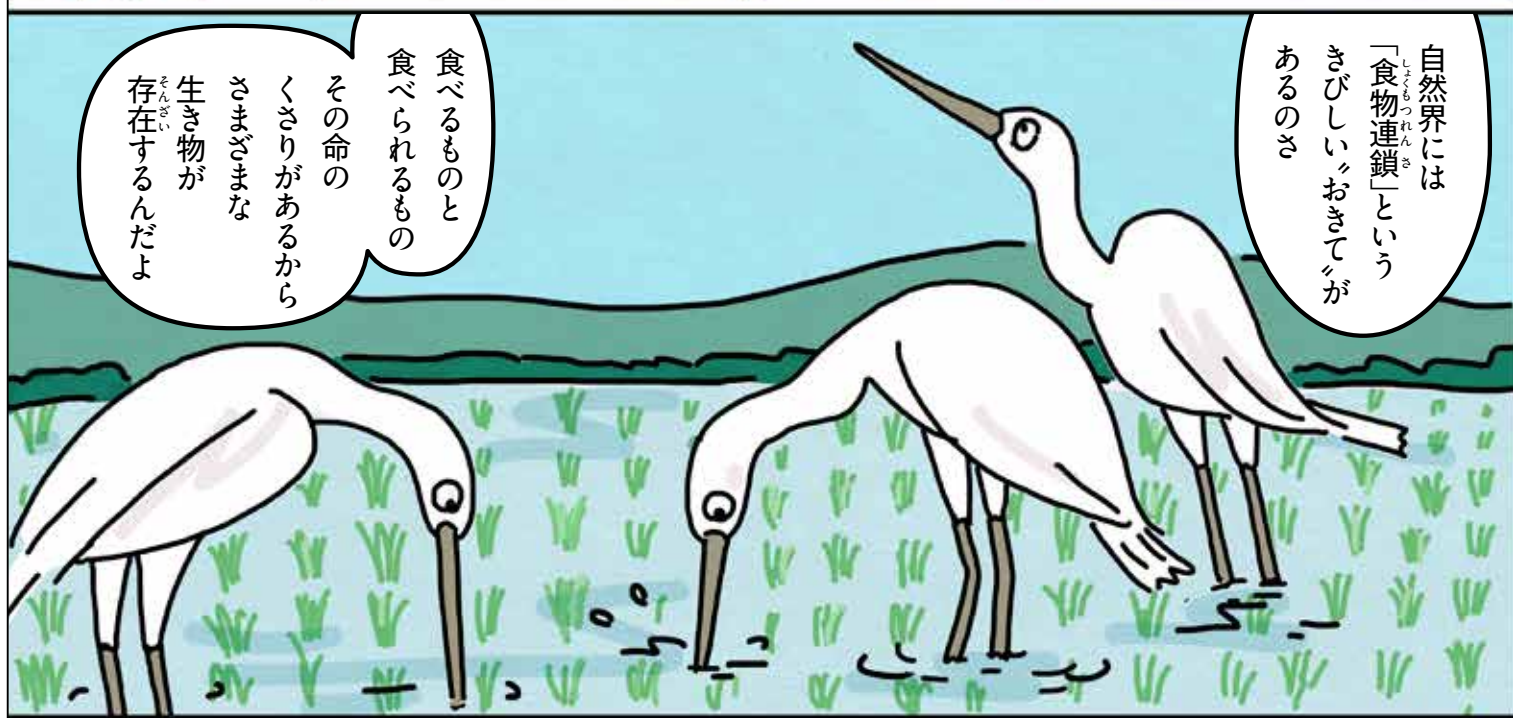
豆知識 日本には、「ためんてきまのう多面的機能(→20ページ)」を守るための共同活動をする農家などの活動組織が かつどうそしき約26,000あります。



そして
そのタガメを
わたしたち鳥が
食べます



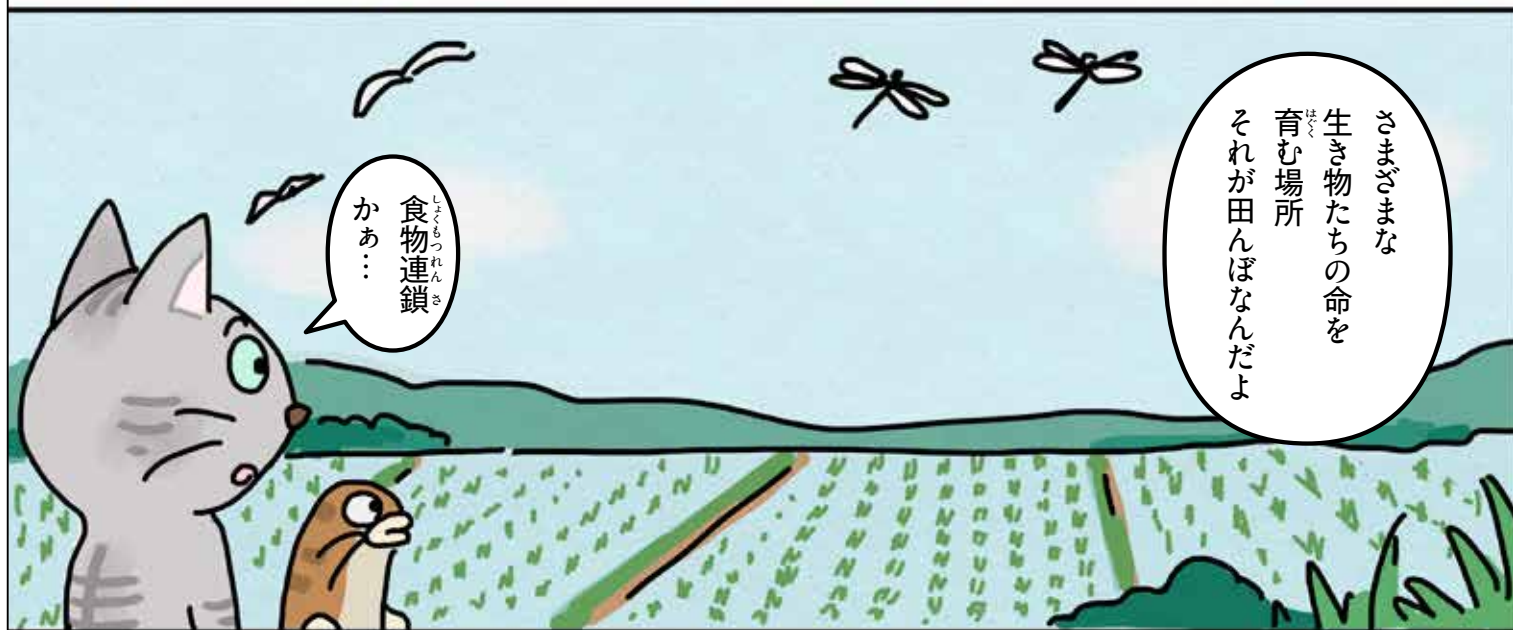
バサッ



自然界には
「食物連鎖」という
きびしいおきてが
あるのだ

食べるものと
食べられるもの

その命の
くさりがあるから
さまざまなか
生き物が
存在するんだよ



さまざまなか
生き物たちの命を
育む場所
それが田んぼなんだよ

食物連鎖
かあ…



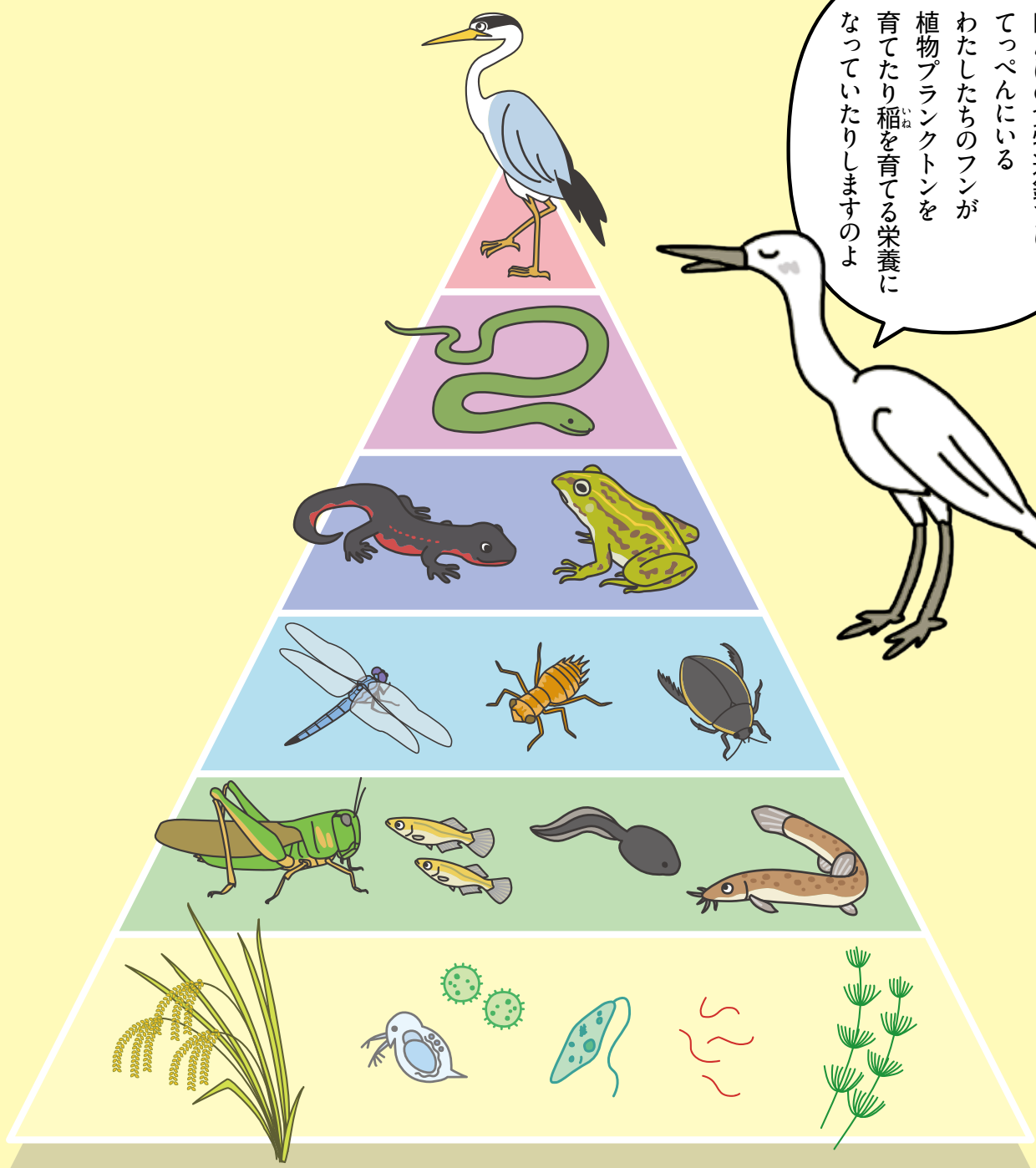
豆知識

タガメは、「田んぼのハンター」ともいわれています。体長は5～6cmくらいです。



浅くて安定した水たまりが植物プランクトンを育て
それを動物プランクトンが食べて
さらに魚たちが捕食するんだよ

田んぼの食物連鎖しよくもつれんさ



田んぼの食物連鎖しよくもつれんさでは
てっぺんにいる
わたしたちのフンが
植物プランクトンを
育てたり稲いねを育てる栄養に
なっていたりしますのよ

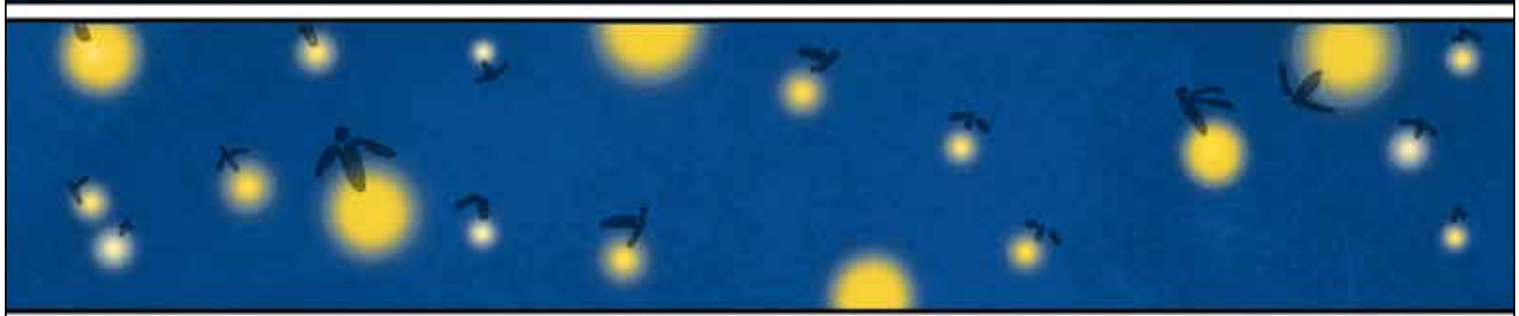
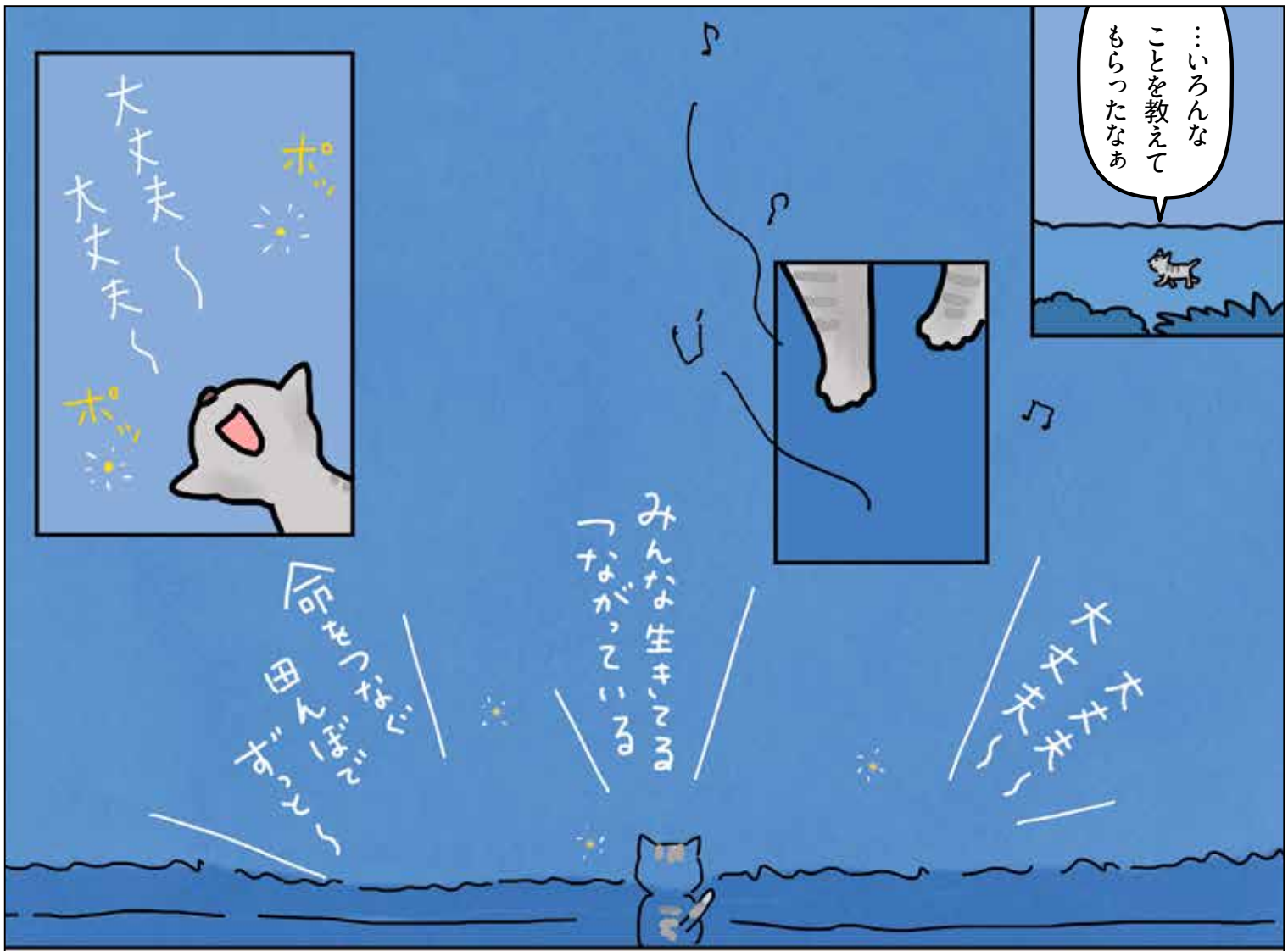
田んぼと周辺の山や川、水路すいろがつながる環境かんきようが都市開発などによって、
失われている場所では食物連鎖しよくもつれんさがくずれつつあります。
地域ちいきのみんなと知恵ちえと力で環境かんきようを守る必要があります。



ここから読みこんでね!



「食物連鎖しよくもつれんさ」が何か、その仕組みと合わせて調べましょう。
動画「生きものの命つながる田んぼ」(4分20秒)が見られます。



豆知識

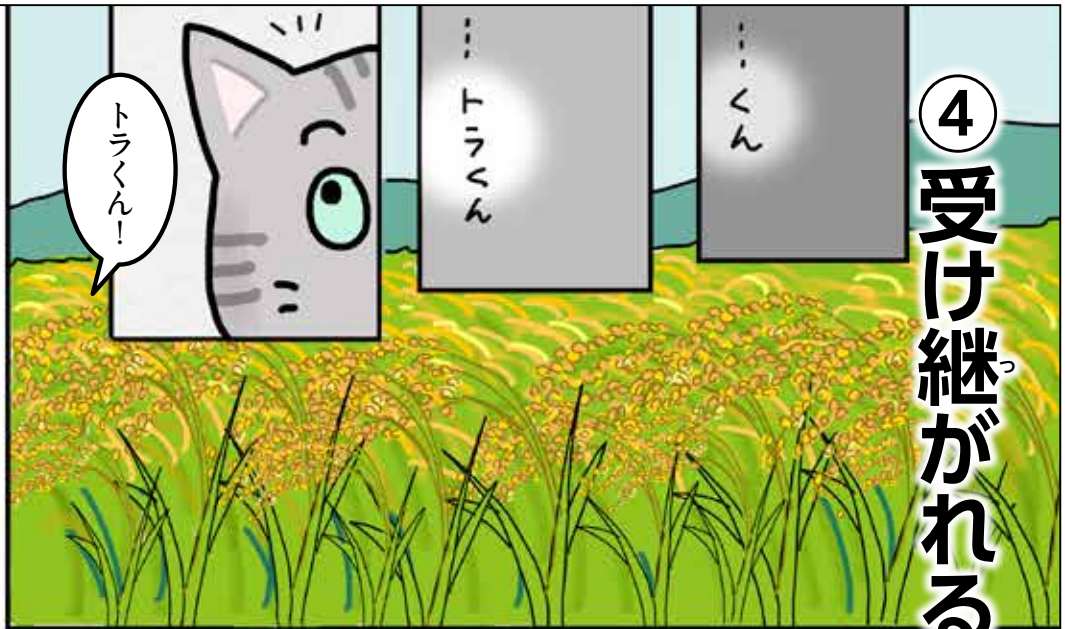
田んぼや池に生息し、おしりを光らせているホタルは、「ヘイケボタル」のオス。体長は7~10mmほどです。

④ 受け継がれる伝統文化

でんとらぶんか



トラくん
どこに
行ってたの？



トラくん！

…トラくん

…くん



おなかすいた
ごはんを
もらいに
行こうよ

ホントだ



あ！
待って
いいにおい



ミー
実は今ね…



じゃあ
いっしょに
ごはんを
する？

ニャあ



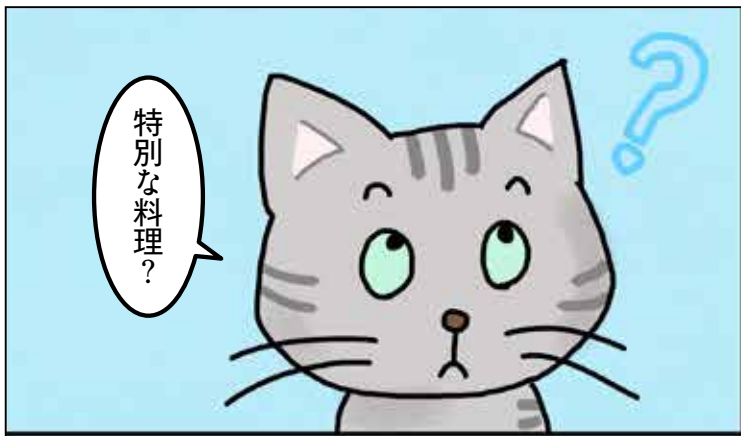
あら
お友だち？



ここから読みこんでね！



農林水産省「うちの郷土料理～次世代に伝えたい大切な味～」のサイトに飛びます。全47都道府県の郷土料理や、みなさんの住む地域にはどんな郷土料理があるか見てみましょう。



特別な料理？



祭りのときは特別な料理を食べるんだよ



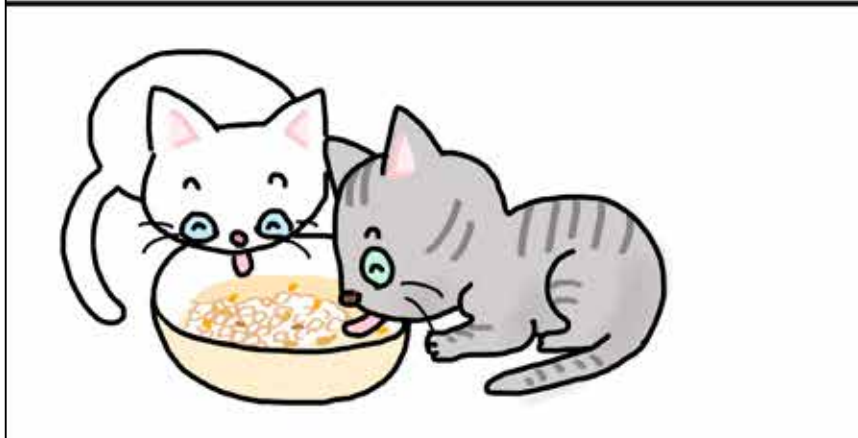
昔からこの地域ではお正月など「晴れの日」にはそばやまきびもちなどの雑穀を取り入れた食事を食べるのよ

「ハレノヒ」



そば米雑炊
おいしそう〜

はい
どうぞ



そば米雑炊



米が育ちにくい気候とされていた徳島県の祖谷地域に平家が逃げてきたのをきっかけに、栽培期間が米より短い、そば作りが盛んになったといわれています。そばの実をそのまま使って調理しているため、ミネラルや食物繊維など栄養たっぷりです。

じゃがいも餡の団子



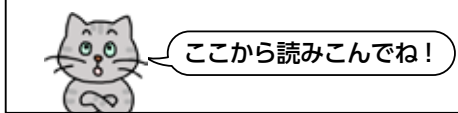
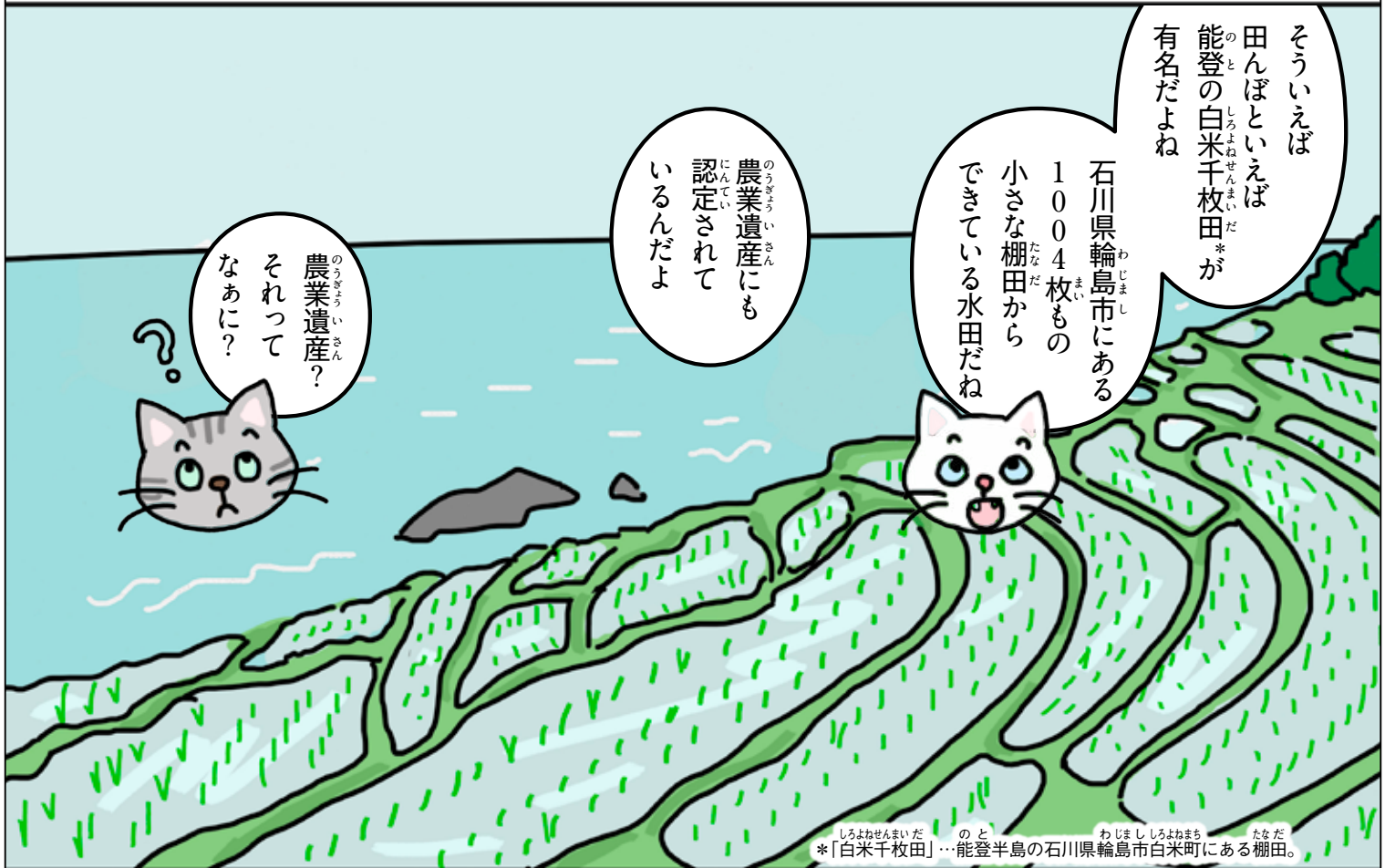
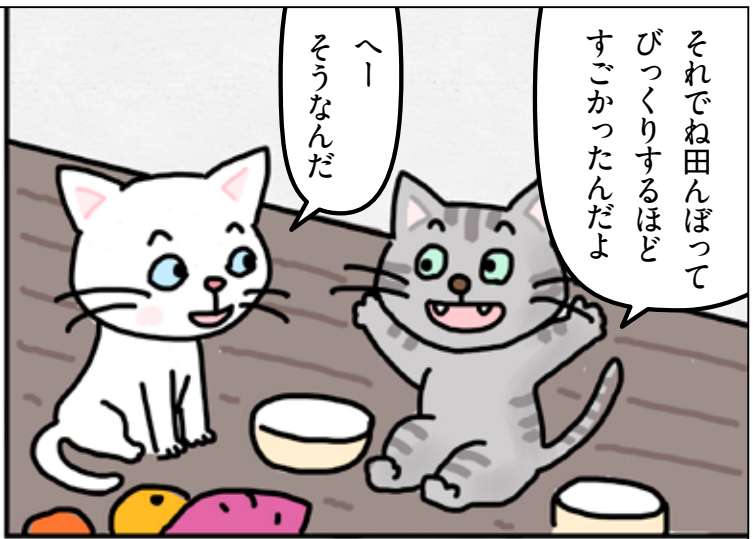
昔は砂糖が貴重で、あんこが高価なものであったため、つね日ごろのおやつとして、甘辛く味つけしたじゃがいもを餡に代用していました。まんじゅうをふかしたようなものですが、徳島県にし阿波地域では、これを団子とよんでいます。

農業遺産地域
「徳島県にし阿波地域」の郷土料理なんだって
あと後でくわしく説明するね！



豆知識

※「晴れ(はれ)の日」とは、お正月をはじめ、結婚式や祭りなどの特別な行事のある日のことです。一方、日常を「曇(け)の日」といいます。



全国各地の棚田には「棚田オーナー制度」があり、オーナー(所有者)になれば、
農作業体験ができたり、棚田のお米を宅配してもらえたりすることができます。



農業やそれを営む農村のくらしを大切に受け継いで
行くために、世界中で農業遺産を認定しているよ

農業遺産とは

地域の人びとが農業、林業、漁業を営む中で独自に築き、長い間守り続けてきた知恵や工夫、風景、その土地特有の文化、生き物たち、これらを未来に受け継いでいくためにつくられた制度が「農業遺産」です。
農業遺産には、「世界農業遺産」と「日本農業遺産」があります。

世界農業遺産

…国際連合食糧農業機関(FAO)によって認定されます。

日本農業遺産

…日本の農林水産大臣が認定します。



大規模とか効率性とはちがうけど
地球にやさしいんだよ

これならずっと
続いていけるね



世界農業遺産

宮城県大崎地域

日本農業遺産



季節風「やませ」による冷害や地形が原因の洪水・濁水などへの対策、水管理、屋敷のまわりを木で囲う「居久根」を整備し、災害に強い農村をつくっています。



日本農業遺産

三重県尾鷲市、紀北町



傾斜が厳しく、雨の多い山岳地帯という環境にも強いヒノキを独自の方法で品質を高めて生産しています。また、ヒノキを海の生き物のすみかとしても活用し、森と海とのつながりも大切にしてきました。



世界農業遺産

滋賀県琵琶湖地域

日本農業遺産



昔から多くの魚が生息する琵琶湖地域では、湖から田んぼにニゴロブナなどが入って来るなど、琵琶湖と共生する農林水産業が発達しており、独自の食文化を伝えてきました。



ここから読みこんでね!



農業遺産に認定された地域ではどんな農業やくらしが営まれているでしょう? 動画「ニッポンの農業遺産」(10分)が見られます。



日本で世界農業遺産と日本農業遺産に
認定されている場所を紹介するね！

かいせつ
解説

世 = 世界農業遺産 日 = 日本農業遺産

23 徳島県にし阿波地域 世 日
にし阿波の傾斜地農耕システム
(→26、30ページ)

24 島根県奥出雲地域 日
たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業

25 愛媛県南予地域 日
愛媛・南予の柑橘農業システム

26 熊本県阿蘇地域 世
阿蘇の草原の維持と持続的農業

27 大分県国東半島宇佐地域 世
クヌギ林とため池がたがな国東半島・宇佐の農林水産循環

28 宮崎県高千穂郷・椎葉山地域 世
高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム



29 宮崎県日南市 日
造船材を産出した飲肥料業と結びつく「日南かつお一本釣り漁業」

30 宮崎県田野・清武地域 日
宮崎の太陽と風が育む「干し野菜」と露地畑作の高度利用システム

(令和4年11月時点)

18 兵庫県南あわじ地域 日
南あわじにおける水稲・たまねぎ・畜産の生産循環システム

19 和歌山県みなべ・田辺地域 世
みなべ・田辺の梅システム

20 和歌山県海南市下津地域 日
下津蔵出しみかんシステム

21 和歌山県高野・花園・清水地域 日
聖地 高野山と有田川上流域を結び持続的農林業システム

22 和歌山県有田地域 日
みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム

15 滋賀県琵琶湖地域 世 日
森・里・湖に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム
(→28ページ)



16 兵庫県兵庫美方地域 日
兵庫美方地域の但馬牛システム

17 兵庫県丹波篠山地域 日
丹波篠山の黒大豆栽培

7 新潟県佐渡市 世
トキと共生する佐渡の里山

8 新潟県中越地域 日
雪の恵みを活かした稲作・養鯉システム

9 富山県水見地域 日
水見の持続可能な定置網漁業

10 石川県能登地域 世
能登の里山里海(→27ページ)

11 福井県三方五湖地域 日
三方五湖の汽水湖沼群漁業システム

12 岐阜県長良川上中流域 世
清流長良川の鮎

13 三重県鳥羽・志摩地域 日
鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業

14 三重県尾鷲市・紀北町 日
急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業(→28ページ)

みんなが知っている地域はあるかな？



1 宮城県大崎地域 世 日
持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システム(→19、28ページ)

2 山形県最上川流域 日
歴史と伝統がたがな山形の「最上紅花」



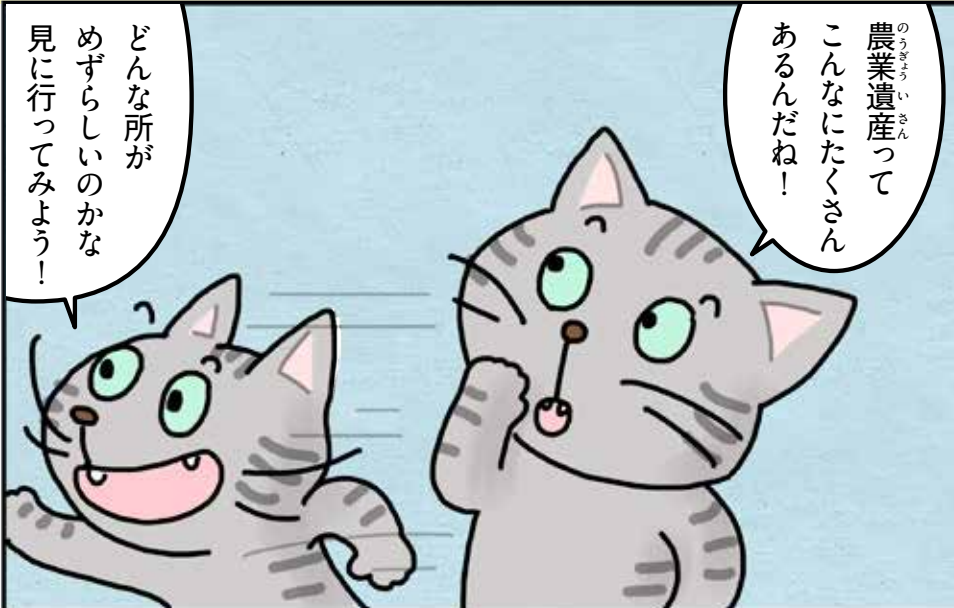
3 埼玉県武蔵野地域 日
武蔵野の落ち葉堆肥農業

4 山梨県峡東地域 世
峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システム

5 静岡県掛川周辺地域 世 日
静岡の茶草場農法



6 静岡県わさび栽培地域 世 日
静岡水わさびの伝統栽培



どんな所がめずらしいのかな見に行ってみよう！

農業遺産ってこんなにたくさんあるんだね！



ここから読みこんでね！



農業遺産地域は日本各地にあります。農林水産省の「世界農業遺産・日本農業遺産認定地域」のサイトで、どんな面白い取り組みをしているのか見てみましょう！



のうぎょういざん
農業遺産のひとつ、
にし阿波地域あわちいきにやって来たよ！

「にし阿波地域あわちいき」は、徳島県西部の美馬市みまし、三好市みよし、つるぎ町つるぎ、東みよし町あづみよしの2市2町からなります。標高100～900mの山間地域に集落が点在しています。



かやを積んで



細かくだいて畑ひりょうに入れて肥料に

にし阿波地域あわちいきは
ななめ40°にもなる
土地で独自の農業を
しているよ



ひえ～
すごい坂だね



ねんりょう
燃料ねんりょうやかやぶき屋根

にし阿波地域あわちいき



流れてしまった土もどを戻す
「土あげ」



定期的な
くさか
草刈り

生物多様性の保全ほぜん

人の手が入ることによって多くの虫やそれをえさとする鳥類などの生き物の生息場所になる



食べる
食文化の形成



そば・きび・ひえ・あわさいばいを栽培する
貴重な地域固有品種ほぜんの保全



これも農業によって土の流失を
ふせ
防いだり、生物多様性の保全ほぜんや地域の文化をつくったりという「多面的機能」のひとつの形なんだね！

ざっく
雑穀って「そば」「きび(黍)」「ひえ(稗)」「あわ(粟)」などのことだよ
みんなもごはんまに混ぜて食べたことがあるかな？



いろいろ
分かるよ!!



みんなも
農業体験したり
農村を訪れたり
してみてね!

農業って
その土地や
生きものを守ったり
文化をつくったり
人びとのくらしに
欠かせない役割を
担になったりして
いるんだね



ここから読みこんでね!



ないかくかんぽう
ないかくふ
そうむしょう
内閣官房、内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、環境省が推進している「子ども農山漁村交流プロジェクト」の事例や受け入れ先などの情報はこちら。

新潟版

(ミーとトラの大冒険) 日本の農業と伝統文化 解説資料

I 農業の営みについて

わが国では、江戸時代には全国に約7万の村落が存在し、人口の約80%が農村に住む百姓でした。農村では、土地を拓き、村を創り出した地域の先人も鎮守の杜に祀られ、農業の営みを通じて五穀豊穡を祈る芸能や祭り、地域独自の知恵などの文化が守られ、伝えられています。

日本の年中行事や祭りの多くは、稲の豊作を祈る・感謝するなど農耕の祭事に由来しています。これらは「春、夏、秋、冬」の季節に応じた様々な伝統的な行事として受け継がれており、人々は農耕儀礼と密接に結びついた年中行事を通じて季節を楽しみ、様々な願いを託し、村落の絆を強めてきました。

四季ごとの日本の代表的なお祭り

春

春は田植えの季節です。

「田の神」を山から迎え入れ、今年の豊作を祈る祭りが行われます。

● 水口祭

苗代に^{もみ}稲を播く日に水口に土を盛り、季節の花や小枝を挿し、御神酒や焼米などを供え、山の神に豊作を祈ります。

● 御田植祭

田植えの時期に早乙女などが実際に田んぼに入って田植えなどの農作業を行い、今年の農作業の無事や豊作を祈願します。

夏

夏は稲が成長する季節です。

無事に育つように、害虫の発生、雨や風の被害がないことを祈ります。

● 虫送り

松明を^{たいまつ}灯し、害虫を結びつけたわら人形を流す、捨てるなどして、害虫を追い払います。

● 雨乞い

干ばつが続いた際に、踊りを奉納したり火を焚くなどして、雨が降ることを祈ります。

秋

秋は実り、収穫の季節です。今年も無事に収穫できたことを神に感謝し、各地の農村では秋祭りが行われます。

● 新嘗祭

新穀を神々に供え、その年の収穫に感謝する宮中祭祀の一つです。十一月に各地の神社でも収穫祭として行われます。

● 秋祭り

収穫に感謝して秋に開催される祭りの総称です。農村では田の神に感謝し、山へと送り出す祭りも行われます。

冬

冬は農閑期となります。寒さの厳しいこの時期には、魂を充実させ、新たな年の無病息災、五穀豊穡を祈ります。

● 賽の神・どんど焼き(地域による)

小正月に各地で行われる火祭りです。正月飾りなどを燃やし、その火で焼いた餅などを食べて、新たな年の無病息災や五穀豊穡を祈願します。

● 田遊び

春の耕作開始に先立ち、新春にその年の豊作を祈って行う予祝行事です。神社の拝殿などで田植えなどの農作業の様子を模擬的に演じます。

▼詳細はこちら

「農村の伝統文化」農林水産省HP

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/noukan/>

nougyo_kinou/pdf/maturi_zentai.pdf



新潟の祭りと伝統文化

昔から稲作が行われてきた新潟県では、様々な意味が込められた行事が現代に引き継がれており、国や県、市町村の文化財に指定されているものもあります。皆さんの文化財に指定されているのか。皆さんの地域の行事ではどのような意味が込められているのでしょうか。



▶ 詳細はこちら
新潟県の文化財について
<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bunka/niigata-bunkazai.html>

佐渡

佐渡の車田植、花笠踊、新穂の山王祭、佐渡の人形芝居
(文弥人形・説経人形・のろま人形)
白山神社の田遊神事、羽黒神社のやぶさめ、五所神社の御田植神事、佐渡の大神楽舞楽、小木のたらい舟製作技術 (佐渡市)

下越

山北のボタモチ祭り、大須戸能、岩船まつりのしゃぎり曳行と「とも山」行事、村上祭の屋台行事 (村上市)
ショウキ祭り (阿賀町、新発田市)
弥彦神社燈籠おしと舞楽 (弥彦村)
下中野御神楽舞 (燕市)

上越

直江津・高田祇園祭の御旅所行事と屋台巡行 (上越市)
関山の仮山伏の棒遣いと柱松行事 (妙高市)
青海の竹のからかい、糸魚川・能生の舞楽、根知山寺の延年 (糸魚川市)

中越

越後の凧合戦習俗 (新潟市、三条市、見附市、長岡市)
三条神楽 (三条市)
王神祭 (長岡市)
巫女翁人形操り (長岡市、小千谷市)
牛の角突き習俗 (小千谷市、長岡市、魚沼市)
浦佐毘沙門堂の裸押合、大前神社の式三番 (南魚沼市)
大の阪 (魚沼市)
綾子舞 (柏崎市)

農業に関する四季ごとの祭りの例

春

佐渡の車田植

(写真：車田植の様子 佐渡市提供)

佐渡市

5月に行われる古風な田植仕舞いの習俗で、畦で歌われる田植唄に合わせて3人の早乙女が田の中心に苗を植え、それを中心に渦を描くように田植えをする。田植唄や車状の苗の形から、豊作を祈願していると考えられている。

夏

越後の凧合戦習俗

(写真：白根大凧合戦の様子 新潟市提供)

新潟市、三条市、見附市、長岡市

江戸時代から行われている地域の伝統行事であり、毎年6月上旬に開催している。梅雨前の堤防の地固めや草刈りを併せて行う先人の知恵とも考えられる。

秋

関山の仮山伏の棒遣いと柱松行事

(写真：奉納演武の様子 妙高市提供)

妙高市

「仮山伏」とは、関山神社火祭りにおいて「仮」の姿として山伏役となる若者たちのこと。妙高山信仰の伝統を受け継ぐ火祭りでは、豊作を祈念し、6人の仮山伏による武器を用いた奉納演武や、柱松への点火競争が行われる。

冬

山北のボタモチ祭り

(写真：ボタモチ作りの様子 村上市提供)

村上市

農業や漁業などの終了を神に感謝し、新たな年の豊作を祈願する行事で、12月と1月に行われる。参加者は持ち寄ったモチ米とアズキを炊いて大きなボタモチを作り、神前に供えたのち全員でボタモチを食べる。

Ⅱ 人々の絆をつくってきた農業

1 食料の生産を支えてきたかんがい施設

稲作のためには農業用水を人の手で引く「かんがい」を行うことが必要です。日本では2千年以上の永きにわたり、生存に不可欠な農地・農業用水が整備されてきました【図1】。

土木技術の発展に依りて、当初は天水（雨水）や湧水、小河川等により水田農業が行われましたが、奈良時代頃には大陸の技術で「ため池」が築造されるようになります。江戸時代前半になると、利根川の付け替えなどの大工事で氾濫原であった関東平野が開発可能になり、それに支えられて人口が増加しました。

明治時代になると、近代的技術（セメント、ダイナマイト、蒸気ポンプなど）が導入され、安積^{あさか}疏水^{そすい}などの国家プロジェクト【図2】が実施され、富国政策の下で耕地面積と人口が急増しました。戦後になると、日本第2位の湖沼面積だった八郎潟（秋田県）を陸地化して1万7千ha（山手線の内側の約2・7倍）の干拓地を生み出した八郎潟干拓【写真1】や愛知用水などが実施され、戦後復興を支えました。

このように、わが国では技術の発展に依りて命を支える農業基盤が整備されてきました。

▼詳細はこちら「水土の礎の歴史的展開」

<https://suido-ishizue.jp/kenkai/index.html>

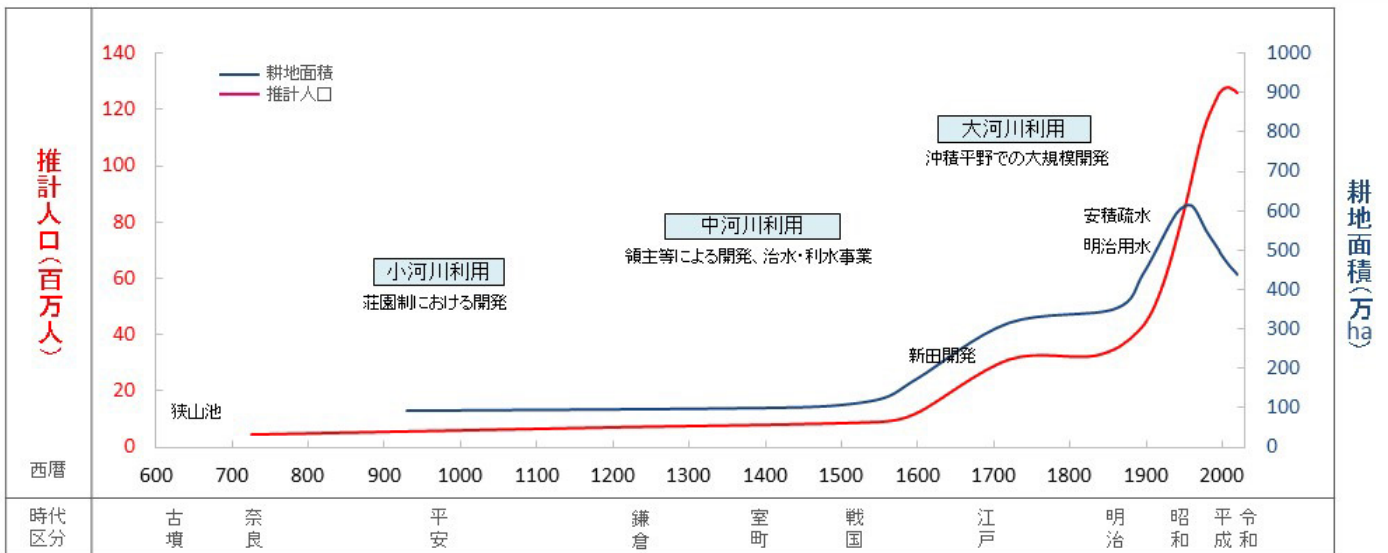


図1 人口と耕地面積の推移（資料：農林水産省）

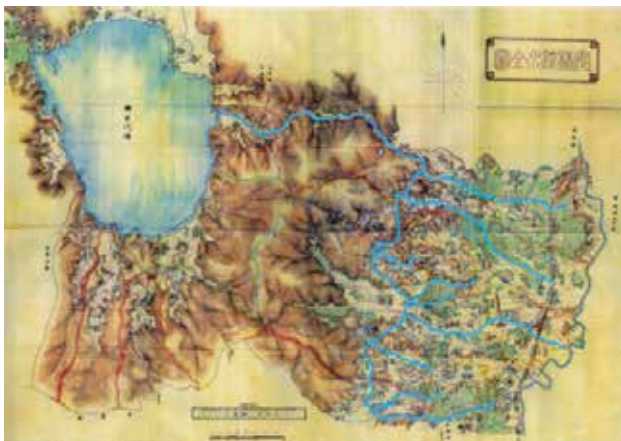


図2 安積疏水全図
(安積疏水土地改良区提供)



写真1 八郎潟干拓地の航空写真
(左：着工前 (S32)、右：干拓後 (S44))
(農林水産省のHPより)

人々の絆を強め、社会秩序を支えてきた かんがい施設

中世頃になると、農民たちが集落単位で用水管理や祭りなどを行うなど、日本特有の「村社会」の原型ができました。村々にとって水を得ることは死活問題であり、渇水時には死者がでるような水争いが頻発しました。岩手県の滝名川では記録に残るだけでも36回の水争いが記録されており、耳や口が欠け落ちた門前狐【写真2】がその激しさを物語っています。

水争いの度に農民たちは争いを未然に防ぐための協議を重ね、各地で水利秩序が形成されました。例えば、雨が少ない讃岐地方（香川県）では線香が燃える時間でため池の水を配分しました【写真3】。滋賀県の高時川では、渇水時に下流の農民たちが厳かに口上を述べた上で上流の堰を切り落とすという「井落とし」【写真4】という儀礼が約400年間にわたり実施されました。

このように、各集落が流血沙汰の歴史を踏まえて、お互い尊重し合いながら社会秩序を形成し、限りある国土の中で「和」を維持するための行動様式を身に付けてきたことが、協調性、勤勉、礼儀を重んじる、共同体意識が強い、などのわが国の国民性の形成に寄与したのかもしれない。

▼詳細はこちら「瑞穂の国の水土里の軌跡 里の章」

<https://www.artic.or.jp/kiseki/jp/sato/index.html>



写真3 番水に使われた拍子木・線香箱・太鼓
写真提供：香川県農政水産部土地改良課



写真2 志和稲荷神社の門前狐（撮影：農林水産省）



写真4 (左) 井落とし前に口上を述べる集落の代表者たち
(右) 井落としの状況

写真引用：水土の礎 湖北の祈りと農 https://suido-ishizue.jp/nihon/19_Kohoku/04sp.html

3 近代における新潟の成り立ち

越後平野はかつて、ほとんどが海で広大な干潟でした。越後絵図（1089年に昔の越後を想像して作成された絵図）

【図3】を見てみると、新潟、新津、村上などの地名は確認できますが、白根、豊栄、亀田といった地名は確認できません。信濃川や阿賀野川が長い年月をかけて山から土砂を運び、少しずつ大地が広がり、人が住みついていきました。中でも新潟市の中心市街地の南側に位置する「亀田郷」は今でも日本屈指の美田を誇りますが、むかしは一面に芦の生い茂る「芦沼」とも呼ばれ、水浸しの大地でした。その中で農民は胸まで泥に浸かりながら田植えを行い、舟を使った収穫などを行っていました【写真5】。江戸時代から大正末期までの約320年間に107回の水害も発生し、田んぼも家さえも流されてしまい、「三年一作」（三年で一回の収穫）とも言われていました。

近代に入り、排水施設の整備による田んぼの乾田化が進められ、昭和23年には栗ノ木排水機場が完成しました【写真6】。その後、地盤沈下や地震の被災により役割を終えた栗ノ木排水機場に代わり、昭和43年には新たに親松排水機場が完成しました。この排水機場は約6秒で25mプールを空にできるほどの排水能力があります。排水施設の整備が進んだことにより、営農がしやすく、人が住みやすい土地になりました。特に、亀田郷の発展には亀田郷土地改良区の理事長であった佐野藤三郎氏による大きな貢献があります【写真7】。佐野氏は、農業分野、まちづくり、国際交流などで大きな功績を残し、新潟市名誉市民にも選定されました。多くの人々の努力の末に、かつては「三年一作」とも言われた水浸しの大地が現在では水稲の作付面積・収穫量ともに全国第1位（新潟県）となり、米菓などの食品産業が集積する本州日本海側随一の中核都市として発展しました。



写真5 胸まで浸かりながらの田植え
出典：水土の礎 芦沼略紀

▼動画はこちら
「水土の礎」
https://suido-ishizue.jp/nihon/01/img/video/win_00.mp4



図3 越後絵図（1089年）
出典：水土の礎 芦沼略紀



写真7 亀田郷の発展に貢献した佐野藤三郎氏
出典：潟のデジタル博物館（新潟市）

▼詳細はこちら
「佐野藤三郎～大地に夢に追い続けて～」
（公財）食の新潟国際賞財団、亀田郷土地改良区
<https://www.niigata-award.jp/meivo-sanoutouzaburo/>



写真6 栗ノ木排水機場
出典：水土の礎 芦沼略紀

▼詳細はこちら
「水土の礎 芦沼略紀」
（一社）農業農村整備情報総合センター
<https://suido-ishizue.jp/nihon/17/00.html>



4 現代に受け継がれる農業水利施設を管理する 「土地改良区」

現代に受け継がれるダム、取水堰等の基幹的かんがい施設等は全国で約7千7百箇所整備されています。また、水路については基幹的な施設が約5万km、末端の小水路まで含めると約40万km以上となり、地球と月の距離（約38・4万km）を超える総延長となっています。これらの施設は先人たちの知恵と熱意により築かれ、時には激しい水争いを伴いながら、農業者が中心となって共同作業により守り、整備されてきたものです。

他方、これらの施設の多くは戦後復興期に整備・改修されたものであり、今後耐用年数を超過した老朽化施設が増加していく見込みであることから、これらの施設を良好な状態で保全管理して、次世代に引き継いでいく必要があります。これらの農業水利施設を管理しているのが「土地改良区」という団体で、土地改良法に基づき、地域の関係農業者により組織されています。

土地改良区の数は全国に約4千3百地区、組合員数は約346万人（令和3年現在）となっております。土地改良区は農業水利施設の整備、区画整理等の土地改良事業を実施するほか、整備した施設の維持管理等を行うなど、国民の命とくらしを育む豊かな農業と農村を支えす活動を行っています【図4】。



図4 土地改良区が行う管理・操作業務の例

地域を守る土地改良区

西蒲原地域の新川河口排水機場

新川河口排水機場は昭和45年に建設（平成30年に改修）されました。西蒲原地域の約2万haに広がる田畑や住宅地の排水を担い、日本最大級の排水能力を誇る排水機場です。

排水機場の操作は、新潟県から委託を受けた西蒲原地域土地改良区が行っており、洪水はいつ起きるか分からないため、24時間体制で監視・操作を行っています。このような施設や操作をされる方のおかげで、西蒲原地域約33万人の安全な暮らしが守られています。



新川河口排水機場



土地改良区での監視・操作の様子

世界から評価を受けている日本のかんがい施設遺産

世界かんがい施設遺産（Heritage Irrigation Structures）制度は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成と施設の適切な保全に資することを目的として、国際かんがい排水委員会（ICID：International Commission on Irrigation and Drainage）により創設された制度です。

世界かんがい施設遺産は世界で21か国200施設が登録されており、そのうち、日本の施設数は56と、世界で最も多く登録されています【図5】（令和7年10月末時点）。登録される施設は、建設から100年以上経過し、歴史的・技術的価値のあるかんがい施設であり、日本のかんがい施設の歴史的・技術的価値が国際機関からも高く評価されているといえます。

世界かんがい施設遺産への登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への研究機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりへの活用が期待されています。

▼世界かんがい施設遺産への最新の登録情報はこちら

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kaigai/ICID/his/his.html>

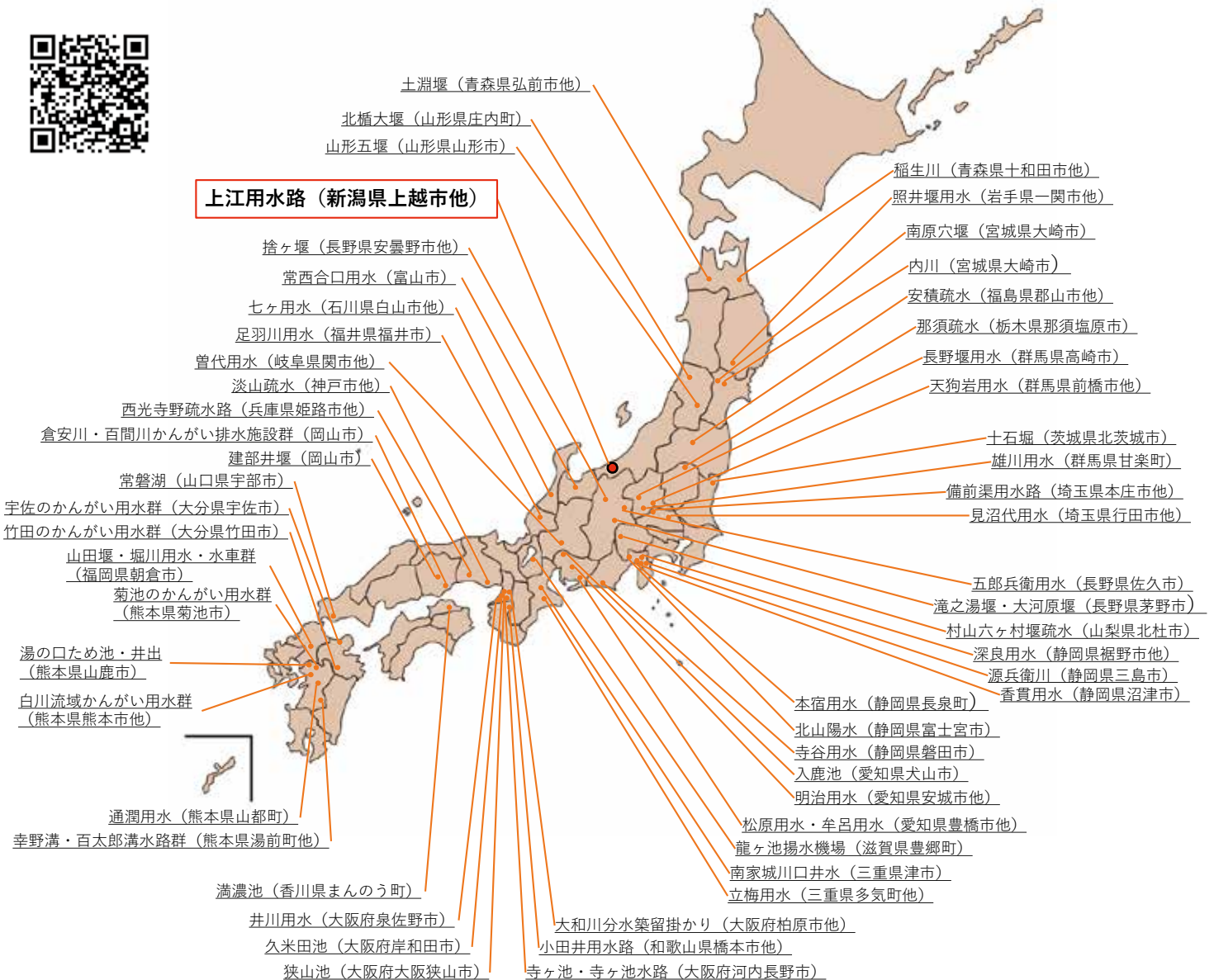


図5 世界かんがい施設遺産の位置図（令和7年10月末現在）

上江用水路の歴史「偉大な先人達の話」

およそ450年前前に造り始められた上江用水路は、山をくりぬいたり、人の屋敷の下を掘ったりしながら作られた延長約26kmの用水路です。一滴の水も欲しい農民たちが自らの農業生産を確保するために自力で開削したことが始まりと言われています。1573〜1781年の間に3期に分けて、時代ごとの熱意ある先人たちによる利害調整、時には私財の投入によって掘り継がれ、のべ130年をかけて現在の延長になりました。土水路として掘られた上江用水路は、近代以降の土地改良事業で改修され、現在でも約2千6百haの水田を潤しています。

また、明治時代から電源開発が始まり、上流にある水力発電所（全12箇所）では「取水→発電→放水」が効率よく繰り返され、放流水の一部が上江用水路の農業用水として利用されています。農民たちはそれぞれの用水掘り継ぎの功労者を神仏として祀り、現在でも毎年、川上権現社祭礼や上江北辰神社例大祭などで、先人の遺徳に感謝し安全通水や五穀豊穰を祈願する行事が行われています。

上江用水の開削時期と功労者

開削時期	開削距離	功労者
第1期 1573～1648年	約6km	富里久八郎 (代表農家)
第2期 1650～1694年	約10km	清水又左衛門 (地方役人)
第3期 1772～1781年	約10km	下鳥富次郎 (地主)



上江北辰神社例大祭の様子



【動画(15:30)】上江用水山に穴を開けた先人達
(新潟県公式チャンネル)

新潟から「食と農」を世界へ

「食の新潟国際賞」とは、世界における食の質と量を高め、食文化と食産業を創造的に発展させ、人類の福祉と健康・平和に多大な貢献をした人や活動に送られる賞です。

新潟には水と土との壮絶な戦いの歴史があり、数多くの先人の志によって全国一の美田が形成され、現在では豊かな食材や食文化、食品産業を有する地域となりました。とりわけ不屈の精神をもって新潟、そして世界の食糧問題の解決に尽力した佐野藤三郎氏の献身的精神と情熱を次世代に継承するため、新潟の産業界・学术界・行政分野の有志によって、新潟から世界に貢献する事業として運営されています。

日本のみならず世界各国からも応募が集まるこの賞は、世界の人々の健康と幸せを願う気持ちでこめられています。



食の新潟国際賞 表彰式の様子



正賞「シュプリングェン」
宮田 亮平氏 作



食の新潟国際賞HP

Ⅲ すごいぞ 田んぼの力・様々な機能

1 農業農村の多面的機能について

農業・農村には、食料生産の機能のみならず、「農業・農村の有する多面的機能」と呼ばれる様々な『めぐみ』をもたらす機能があります。例えば、水田は雨水を貯留して洪水や土砂崩れを防いだり、生きものを育んだり、私たちの心を和ませてくれたりする機能があるなど、そのめぐみは農業者のみならず、国民全体で受けています【図6】。

しかしながら、近年の農村の過疎化、高齢化、混住化等に伴い、多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。例えば、農業用の排水路には、農地からのみならず、宅地等からの排水が流れ込んでいます。排水路の土砂上げ等が行き届かなくなると、大雨時に水があふれ、周辺の住宅などに悪影響が出ることとなります。このため、多面的機能を維持するためには、農地や水路に絶えず手入れをしていくことが重要です。



【図6】 農業農村の多面的機能

2

多面的機能を保全する「活動組織」

こうしたことから、農林水産省は「多面的機能支払交付金」制度により、農業者や地域の人々が行う草刈や土砂さらいなどの共同活動を支援しています。

従来、地域の農業者を中心に行われていた草刈や土砂さらい等により、地域全体に多面的機能の恩恵が及んでいました。しかし、農業者の減少や高齢化等により、地域の方々にも参加してもらわれないと、水路や農地の保全が十分できなくなっています。

この活動に取組む活動組織は全国に約2万5千組織あり、本交付金による活動は、農業者のみならず地域ぐるみの活動として行われ、コミュニティ機能の増進にも寄与しています。



【写真8】 水路、農地周辺の草刈り
(写真提供：新潟市)



【写真9】 水路の土砂さらい
(写真提供：新潟市)



【写真10】 農道の補修
(写真提供：新潟市)

多面的機能

農村文化の継承活動

三ツ山地域資源保全会は、棚田を有する中山間地域の小規模高齢化集落であり、平成26年度から活動を開始しています。活動組織は、明治時代が起源である、水を張った棚田に映る満月を鑑賞する行事「田毎の月」を地域の宝として復活させ、後世に受け継いでいく事を目標に、地域資源の保全管理や交流人口の拡大に取り組んでいます。

また、地域内外のボランティア団体とも連携した保全管理活動やはざかけ体験を毎年開催しており、地域内外との交流を深めるとともに、地域の魅力をPRしています。

このような活動がきっかけとなり、地域の将来に関する様々な話し合いが進み、集落のオリジナルブランド米の販売へと進展し、農業者の所得向上にも繋がっています。



三ツ山地域の「田毎の月」



はざかけ体験



地域外ボランティアとの連携

地域防災

田んぼダムの取組

「田んぼダム」とは、田んぼの水の出口である落水口（排水柵）に、調整板を設置し、水が時間をかけて少しずつ流れ出るようにすることで、水田に雨水を一時的に貯留し、下流の洪水被害の軽減を図る取組です。

この取組は、新潟県旧神林村（現在の村上市）が発祥であり、その後、全国各地に広がりました。令和6年度には、新潟県の取組面積は全国2位となっています。農業を続けながら、地域の防災にも貢献できる「一石二鳥」の取組であり、農家だけでなく、行政や地域住民が協力して推進することで、地域全体の安全性が高まります。

下の図は、新潟市南区の白根地区において、大雨が降った場合に、田んぼダムの実施有無による浸水状況をシミュレーションしたものです。着色が浸水箇所であり、濃いものほど、その程度が大きいことを示しています。田んぼダムを実施した場合には、浸水面積や深さが減少しており、防災・減災の機能が発揮されることがわかります。



田んぼダムの模式図



排水状況の比較



田んぼダム未実施の場合



田んぼダム実施の場合

浸水シミュレーションの結果

IV 受け継がれる伝統文化

伝統的な農林漁業を受け継ぐ 「農業遺産制度」について

農業遺産制度とは、地域で継承されてきた伝統的な農林水産業と文化等を一体的に「農業遺産」として認定する制度です。

農業遺産として認定された地域では、概ね100年以上の間、脈々と受け継がれてきた伝統的な方法で農業・林業・漁業を営んでいます。これらの伝統的な農林水産業は、地域の気候、地形、歴史的背景などに育まれて形成されたもので、独自性が高く、その地域固有の食文化や風土・景観を生み出しています。

農業遺産は、農林水産業の営みそのものであり、社会的、経済的、生態学的な変化に適応しながら進化を続けている「生きている遺産」です。農業遺産に認定された農林水産業は、自然資源（土壌や森林、水産の資源）を枯渇させない資源循環システムを有しており、環境負荷が少ないため、日本固有の生き物を含む生物多様性の保全にも貢献しています。

▼農業遺産地域の詳しい情報はこちらから

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/gihs_3.html



農業遺産、世界遺産、世界かんがい施設遺産の比較

	農業遺産	世界遺産	世界かんがい施設遺産
認定・登録機関	世界農業遺産：FAO (国連食糧農業機関) 日本農業遺産：農林水産省	UNESCO (国連教育科学文化機関)	ICID (国際かんがい排水委員会)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代に継承すべき伝統的な「無形の農林水産業システム」を認定。 ●農林水産業の営みそのものであり、社会的、経済的、生態学的な変化に適応しながら進化を続けている「生きている遺産」。 	<ul style="list-style-type: none"> ●遺跡や歴史的建造物、自然など「有形の不動産」を登録、保護・保存するもの。 ●「手つかずの自然」、「当時あった形」のまま保存。 	<ul style="list-style-type: none"> ●建設から100年以上経過し、かんがいを主目的としたダムやため池、水路などの歴史的な施設を認定。 ●かんがい農業の画期的な発展、食料増産、農家の経済状況改善に資するもの、構想、設計、施工、規模などが当時としては先進的なもの、卓越した技術であったもの等。
種類	農業遺産は、下記2つの種類があります。 1. 世界農業遺産： FAO認定 2. 日本農業遺産： 日本独自で創設 農林水産省が認定	世界遺産は、下記3つの種類があります。 1. 文化遺産 2. 自然遺産 3. 複合遺産	—

トキと共生する佐渡の里山

トキとの共生を目指す佐渡市では、多様な生きものが生息できる環境を整えるために、トキの主な餌となるドジョウなどが生息する水田において「生きものを育む農法」に島全体で取り組んでいます。水田の水を抜く中干期にも「江」と呼ばれる深みを設置し、生きものの逃げ場となる水辺をつくるなど、1年を通して生きものが生育できる環境をつくっています。

このように、生産の効率化だけでなく、環境に配慮し育てられた米は、「朱鷺と暮らす郷」の名称でブランド化され、販売利益の一部をトキの保全活動に充てることで、食と命を育む生きものと共生した持続的な農業が展開されています。



佐渡の里山に帰ってきたトキ



国の重要無形民俗文化財に指定されている「車田植え」

雪の恵みを生かした 稲作・養鯉システム

山間部の豪雪地帯に位置する中越地域では、棚田で稲作を行うとともに、食用の真鯉を飼う暮らしが行われてきました。山間地で水が少ないことから、雪解け水の貯水による稲作や養鯉に用いる水を確保するシステムが継承されています。

この真鯉から突然変異で生じた色鯉を育種したことにより、錦鯉が発祥しました。質の高い錦鯉は地域の重要な収入源であり、中越地域の原種が世界各地で利用されるなど、重要な知識として継承されています。養鯉業は地域に若い労働力を引きつけ、環境・景観の維持、祭りや料理などの地域文化の継承にも貢献しています。



日本の原風景とも言える棚田棚池の風景



成長と仕上がりに期待を寄せる秋の鯉上げ

V 子どもの農山漁村体験について

1 水田や水利施設などを活用した教育活動

水田の「生き物を育む」「安らぎをもたらす」「文化を継承する」などの多面的機能を活用し、「田んぼの学校」「田んぼの生き物調査」などの教育活動が行われています。また、先人から引き継がれた水路、排水機場やため池等の農業水利施設や自然豊かな里山なども重要な教育資源です。

社会のデジタル化が急速に進む時代であるからこそ、過去と未来、人と自然が「いのち」で繋がっていることを実感することで、人間が人間らしく生きるために必要なことを考えるきっかけとなる体験学習の重要性が高まっています。



写真11 活動組織と学校教育の連携
写真提供：新潟北広域協会

▶ 詳細はこちら
多面的機能支払交付金活動事例集（新潟市）
https://www.city.niigata.lg.jp/business/norinsuisan/noson/hogyonoson/tamennteki.files/R6_zireisyuu.pdf



写真12 排水機場の説明
写真提供：西蒲原土地改良区

▶ 詳細はこちら 水土里ネット西蒲原
http://www.nishikan.or.jp/gakushu/20151027_tachibotoke_e.html



写真13 小滝川ヒスイ峡（写真提供：新潟県）



写真14 さつまいも堀り体験（写真提供：新潟県）



にいがた教育体験
旅行ガイド
（にいがたグリーン・ツーリズムセンター）

2 新潟の「教育体験旅行」

新潟県では各地域のグリーン・ツーリズム受入団体を中心に「新潟県グリーン・ツーリズム推進協議会」が構成されており、研修会等を実施して、県全域の受入レベルの向上を推進しています。

県内にはラムサール条約登録湿地の「尾瀬」「佐潟」「瓢湖^{ひょうこ}」や「糸魚川ユネスコ世界ジオパーク」「佐渡ジオパーク」「苗場山麓ジオパーク」など、世界的に評価されている自然環境も数多くあり、このような地域資源を活用した体験プログラムも行われています。

このような新潟の自然を体験することで、人と人とのつながりの大切さを認識し、農林漁業の意義を理解することにより、子どもの生きる力を育むことができます。

伝統技能

にいがた「なりわいの匠」

新潟県では、農山漁村地域で暮らしの中で培われた「農業・林業・水産業」技術やクラフトづくりなどの「手技」、農産物の加工や地域に伝わる料理方法など、高度な技能を有する人材を「なりわいの匠」として認定しています。令和7年2月現在で2632名（3795技能）の「なりわいの匠」が、県内各地において、体験交流・講習の指導者やイベント等で活躍しています。

県内各地にいる様々な技能を持った「なりわいの匠」を、学校や地域の体験活動や交流会の講師などで活用してみませんか？
最寄りの地域振興局や市町村まで、お問い合わせください。

「なりわいの匠」の技能数（令和7年2月）

技能	技能数	体験内容（例）
農林漁業体験	1,014	米・野菜づくり、平飼養鶏、高木剪定など
郷土文化体験	1,540	昔話・紙芝居、たらい船、塩づくり、陶芸、染め物、のっぺ・笹団子等の郷土料理づくりなど
農林水産物加工体験	901	みそ・漬け物・おこわ、もちつき、納豆、そば打ち、こんにゃく、ふきみそ、キャラブキづくりなど
自然観察体験	340	山菜採り、里山案内、自然観察案内など



【田植え体験】
（写真提供：新潟県）



「なりわいの匠」
ガイドブック



【そば打ち体験】
（写真提供：新潟県）



「なりわいの匠」
在住市町村ごとのリスト

地産地消

新潟県内における地産地消の取組

「地産地消」は地域で生産された農産物をその地域で消費する取組です。新潟県内の特徴ある豊かな農林水産物への理解を深めるために、各地域では地産地消に関する様々な取組が進められています。

地産地消は、生産者と消費者の結びつきの強化、経済の地域循環による活性化、豊かな食生活の実現、食育の推進、食料自給率の向上などの目的に適うものです。また、食料の輸送距離（フードマイレージ）を減らすことでCO₂の排出が削減されるため、環境負荷の低減にも寄与します。

「持続可能」な地域社会を構築するために、まずは私たちができる身近なことから試みて、農業や食をめぐる地域の循環の環を築いていきたいと思います。



給食の米飯は市内産米100%を使用（新潟市）



【魚沼ブランド推奨マーク】（魚沼市）

他にもあります。ネットで見ることのできる

農業・農村の学習資料の紹介



新潟農業振興支援キャンペーン 「水利が拓く実りの明日へ」

新潟県内の農業水利施設や水の恵みについて学べる教材やすごろくなどの資料を公開しています。今までの取組や新聞紙面も全てアーカイブで掲載！不定期で、親子向けのイベントも開催しています。



【HP】
「水利が拓く実りの明日へ」
<https://minorii-niigata.jp/>



食と農を守るイノチのミズ

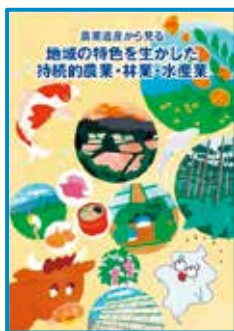
イラストレーター木原四郎さんの美しいイラストとともに、食と農に欠かせない「水」をキーワードとして、新潟県内の土地改良事業や農業者の方々の思い、地域を支える人々を紹介します。



【パンフレット】
「食と農を守るイノチのミズ」
https://minorii-niigata.jp/archive/file/paper_20210204.pdf

学習マンガ「ミーとトラ 瑞穂の国の大冒険」 ～たんぼの軌跡をたどる旅～

ミーとトラが人間になっちゃった！？日本の農業の歴史をたどりながら、農地と水利用の技術など土地改良が果たしてきた社会的役割について理解を深める中学生向けの教材です。
◆中学校「歴史」の授業進行に合わせて活用ができます。



「農業遺産から見る 地域の特色を生かした持続的農業・林業・水産業」

伝統的な農林水産業は、その土地の気候風土に適した方法で行われています。農業遺産に認定されている地域を題材にして、農林水産業が持つ様々な働きを学ぶことのできる中学生向けの教材です。
◆中学校「地理」や高等学校「地理総合」で活用できます。



▲ 詳細はこちら



農村×SDGs 家庭学習用読み物「草刈りは地球を救う」

たんぼは食料を作るために欠かせない場所であると同時に、私たちの毎日の暮らしに不可欠な多彩な機能を持っています。
◆農村の共同作業とSDGsのつながりについて、マンガやクイズで楽しく学べる小学校高学年向けの教材です。



▲ 詳細はこちら



「佐渡市 小倉千枚田の雪化粧」

本冊子は以下のホームページで無料公開しています。

DLはこちら：<https://www.maff.go.jp/hokuriku/kokuei/shinacho/pr.html>



「ミーとトラの大冒険 日本の農業と伝統文化 新潟版」

令和8年2月発行

マンガ制作：NHKエデュケーショナル（農林水産省補助事業）

解説資料制作：農林水産省北陸農政局信濃川水系土地改良調査管理事務所

新潟版制作協力：新潟県、新潟市、村上市、妙高市、佐渡市、魚沼市、その他関係団体の皆様

【お問い合わせ先】

農林水産省北陸農政局信濃川水系土地改良調査管理事務所

代表：025-231-5141